

茗溪



春

2024

令和6年

no.1120



目次

- グラビア …… 01 ~ 02
- 令和5年度茗溪会賞受賞者・活動内容の一覧表 …… 03
- 年会費と学生支援 …… 04 ~ 05
- 令和5年追悼のつどい開催報告 …… 06 ~ 07
- 第13回定時総会開催(5/23)のご案内(令和6~7年度代議員一覧) …… 08
- 地域組織の役員及び総会・研修会予定 …… 09
- 医薬品関係者のつどい報告 …… 10 ~ 11
- Peer Garden (茗溪アルバム) …… 12 ~ 14
- 茗溪フェロー協力者ご芳名 …… 15
- 桐の葉のつどい …… 15
- やどかり「能登地震災害ボランティア報告」 …… 16 ~ 17
- 知の提供・誌上講座「留学政策の古今」 …… 18 ~ 20
- 茗溪・東西南北 …… 20
- 元素講話こぼれ話 第4話 …… 21
- 筑波大学は今 …… 22
- 茗溪学園だより …… 23
- 追悼録 …… 24 ■ 桐の葉のつどい …… 24
- 広報 …… 25 ■ 表紙のことば …… 25 ■ 編集後記 …… 25



早春の江の島沖(撮影:鈴木一弘)



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車
☆貸切バス事業者より
安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群社会学類卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。



■工学部

機械工学科 機械工学コース
機械工学科 航空宇宙学コース
電気電子情報工学科
応用化学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)
管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川茗溪会会 長)

I R 室 望月 正大 (S51 理) (同 副会長)

公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>

明るく楽しい茗溪会



①



②



③

- ① 宣揚歌 (1/6 茗溪会岩手支部)
- ② 挨拶をする高橋縁 (S60 筑二人間) 岩手県支部長
- ③ 乾杯の音頭をとる足立信也 (S57 筑医) 大分市長

- ④ 宣揚歌 (2/17 大分県茗溪会)
リードは新川恭慈応援団初代リーダー部長



④

桐の葉の頃



- ⑤ 宣揚歌 (2/10 岐阜茗溪会)
 - ⑥ 懇談風景 (2/10 岐阜茗溪会)
 - ⑦ 総会風景 (2/10 岐阜茗溪会)
 - ⑧ 懇談風景 (2/17 大分県茗溪会)
 - ⑨ 乾杯風景 (2/17 大分県茗溪会)
 - ⑩ 懇談風景 (1/6 茗溪会岩手県支部)
 - ⑪ 受付風景 (1/6 茗溪会岩手県支部)
 - ⑫ 講演風景 (2/10 岐阜茗溪会)
- 「桐の葉の頃—伝承と創造」を話す事務局長
- ⑬ 会議 (2/18 オール九州茗溪会打合せ)
 - ⑭ 会議 (2/18 オール九州茗溪会打合せ)



令和5年度 茗溪会賞(大学院修了者) 受賞者一覧

学術院・研究科	研究群	専攻・プログラム	氏名	活動の名称
人文社会科学 ビジネス科学 学術院	人文社会 科学研究群	(博士前期課程) 人文学学位プログラム	矢口 莉花	言語学を基盤にした第二言語習得研究の顕著な学習成果
		(博士前期課程) 国際日本研究学位プログラム	劉 悦	日本語教育分野への顕著な学修成果および地域社会活動への貢献
	ビジネス 科学研究群	法学学位プログラム(博士前期課程)	永坂 裕計	商標(商号)と人の氏名の利益調整に関する問題の顕著な学修成果
		経営学学位プログラム(博士前期課程)	阿多 誠介	AI分野の企業共同イノベーション研究への顕著な貢献
	—	法曹専攻(専門職学位課程)	栗原 佑介	法学分野での研究や法曹専攻での顕著な学修成果
—	国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)	江口 侑子	がん患者さんと家族のサポートサービス創出	
理工情報 生命学術院	生命地球 科学研究群	生物学学位プログラム(博士前期課程)	中嶋 千夏	生態学分野の顕著な学修成果
		生物資源科学学位プログラム (博士前期課程)	原田 潤	微生物の個性に関する顕著な学修成果及び中高生への微生物啓蒙活動
			河田 円蔵	中学生および高等学校生に対する研究紹介ならびに実験指導
			福田 良亮	微生物学・分子生物学分野の顕著な学習成果・及び科学啓蒙活動への貢献
	システム情報 工学研究群	社会学学位プログラム博士前期課程	丹羽 了	大規模イベントにおける歩行者モデルの拡張と群集制御最適化に関する研究
		情報理工学位プログラム博士前期課程	阿部くらん	高大連携・地域連携への多大な貢献
			佐藤 リナ	アナログ・デジタル混載集積回路分野の顕著な学修成果
		知能機能システム学位プログラム 博士前期課程	錢本 友樹	自然言語処理分野における学術交流活動への貢献および顕著な学修成果
		構造エネルギー工学学位プログラム 博士前期課程	倉友 乃康	特許技術(出願中)の発明及び留学活動による発信活動
	数理解物 質科学研究群	数学学位プログラム博士前期課程	田淵宏太郎	科学技術分野での次世代人材育成への貢献
			高橋 瑞季	Tsukuba Workshop for Young Mathematicians 2024 の運営委員学生代表として活動
		加藤 諒	Tsukuba Workshop for Young Mathematicians 2024 の運営委員学生代表として活動	
		物理学学位プログラム博士前期課程	和氣 暁大	エネルギー分野の顕著な学修成果
		化学学位プログラム博士前期課程	上野 弘夢	修士論文における有機化学分野の顕著な学修成果
		応用理工学学位プログラム 物性・分子 工学サブプログラム(博士前期課程)	小松ひより	超分子生体接着材料の創製に関する顕著な研究成果及び中高生に対する研究 経験の伝達
駒場 京花	児童～高校生への理科教育啓発活動			
人間総合 科学学術院	人間総合 科学研究群	フロンティア医科学 学位プログラム(修士課程)	平尾 巧	医科学分野(生理学研究)における顕著な学修成果
		教育学学位プログラム 国際教育サブプログラム博士前期課程	太田 瑠々	国際バカロレア(IB)の概念型学習に関する研究及び実践への貢献
		教育学学位プログラム博士前期課程 次世代学校教育創成サブプログラム	尾崎 巧	外国にルーツを持つ子どもへの学習支援活動
		心理学学位プログラム心理臨床学 サブプログラム博士前期課程	鶴飼 廉	就学前の子どもを対象とした個別発達支援
		カウンセリング 学位プログラム(博士前期課程)	小森 國寿	産業精神保健分野の顕著な学修成果
		看護科学学位プログラム博士前期課程	平城 諒子	LGBTQ当事者の健康・医療とニーズに関する交流ならびに支援活動
		体育学学位プログラム博士前期課程	花村 春香	スポーツ活動を通じた不登校児のためのキャリア支援
			鈴木 博貴	運動栄養学分野における「つくば栄養サポート」を通じた社会展開
		博士後期課程体育科学学位プログラム	片桐 陽	運動生理学分野の顕著な学修成果
		スポーツウエルネス学 学位プログラム(博士後期課程)	山下 修平	スポーツウエルネス学分野での顕著な学習成果
		芸術学学位プログラム (博士前期課程)芸術支援領域	大森 春歌	造形ワークショップの実施による芸術を通じた社会貢献活動
		世界遺産学学位プログラム 博士後期課程	李 珣媛	世界遺産学分野の顕著な学修成果
		情報学学位プログラム博士前期課程	皆川 達也	ものづくり産業の発展に関わる活動
ヒューマン・ケア科学 学位プログラム 3年制博士課程	中澤(大場)良子	女性特有のがん(婦人科がん、乳がん)体験者の支援活動		
グローバル 教育院	—	ヒューマニクス学位プログラム (一貫制博士課程)	CHANG YUN HSUAN	再生医学研究分野の顕著な学術成果
人文社会 科学研究科	—	(一貫制博士課程)歴史・人類学専攻	原 遼平	歴史地理学分野の顕著な学修成果
システム情報 工学研究科	—	リスク工学専攻博士後期課程	今村 光良	ブロックチェーン技術に関する社会実装への貢献
グローバル 教育院	—	(一貫制博士課程) エンパワーメント情報学プログラム	蛭田 雄也	3次元計測技術に関する顕著な研究成果およびその社会実装での貢献

令和5年度 茗溪会賞(芸術部門) 受賞者一覧

所属	領域	氏名	作品名・論文名
芸術専門学群	版画	藤井 椋子	誰何(主観)/誰何(場面)
芸術専門学群	情報・プロダクトデザイン	猪瀬 陽	KANZOO
芸術学学位プログラム	ビジュアルデザイン	浜野 那緒	TOOLS OF EATING 哺乳類の歯
デザイン学学位プログラム	—	内藤 恵介	SPACE! こそあどベンチャー



年会費と学生支援

茗溪会が10年以上にわたって支援を続けてきた「まなび場さくら塾」の活動風景

●年会費のこと

昨年、季刊誌『茗溪』春・夏・秋号に、「年会費と学生支援」を連載してきました。趣旨は、茗溪会の財政と年会費の用途をお知らせするためでした。

●茗溪会の財政の仕組み

茗溪会は、「独立した二つの会計」から成り立っています。

一つは茗溪会館の維持管理費を賄う「資産会計」で、収入は、地代やテナント料が主な収入源です。もう一つは、学生支援や会員の共益事業を賄う「会費会計」で、年会費から成り立っています。

収入源

- ・年会費
- ・フェロー、寄付等



使いみち

- ・会員の共益事業
- ・学生活動の支援事業

*本部事務経費は、案分(7:3)としています。

収入源

- ・地代
- ・テナント代



使いみち

- ・茗溪会館管理維持費
- ・租税公課

年 度	元号	西暦	登録会員	完納者	納入義務者	納入者	納入率	寄付者
H14	2002	53,215	8,981	44,234	13,466	30.4%	257	
H24	2012	53,904	9,606	44,298	7,732	17.5%	159	
H30	2018	55,630	9,335	46,295	4,871	10.5%	598	
R1	2019	55,586	9,287	46,299	3,162	6.8%	459	
R2	2020	55,418	9,298	46,120	2,650	5.7%	410	
R3	2021	55,289	9,353	45,936	2,754	6.0%	308	
R4	2022	55,069	9,307	45,762	2,671	5.8%	337	

会費納入者は、平成・令和にかけて4,000人台から2,000人台に減少し、昨年は平成最後の年の半減に迫る急落で、平成14年の会費納入者数から約1万人減、3,500万円の収入減となっています。納入率も、平成30年は、10%台でしたが、昨年は5%台という心細い数字です。

ここ数年、会費会計が資産会計によって補填される状態が続いています。

昨年度の会費会計の収支概算をみると、年会費や広告による収入(1,750万円)に対し、会員の共益事業や学生活動の支援事業等に向けられた支出は4,480万円で、約2,700万円の赤字となっています。

会費会計の主な収入源は年会費です。会費会計が年会費で賄われることが通常ですが、それが平成末以降、維持できていないのが現状です。

昨年の会費収入は1,500万円と計上されていますが、会費納入者は、2,671人です。つまり、会費納入者に相当する数字は約930万円で、1,500万円は、会費の複数回納入及び茗溪フェロー寄付(約570万円)を算入した数字です。

寄付や会費複数年納入分は毎年一定額を期待できませんので、年会費納入者だけの会費収支のみですと、実に、約3,550万円弱の不足となります。つまり、昨年の会費納入者数は、平成14年の会費納入者数からみて約1万人減ですから、その減少分に相当するということですが。

以上が会費会計の実態で、先輩が遺してくれた資産(茗溪会館等)に依存した帳尻合わせが続いています。

昨年、茗溪会館の電気系統の大規模な修繕計画が提示されました。今後、上下水道、給水設備や外壁等の大規模修繕が予想されます。資産会計につきましては億単位の資金の着実な積み立てが不可欠です。

資産会計が会費会計を補填し続ける状態が続くと、茗溪会館の老朽化に伴う大規模改修など、資産保全のための計画的な資金準備ができなくなります。

資産会計を資産保全等の本来的な使用に戻し、「会費会計の自立」、つまり、「会費会計は会費で賄う」、この当たり前をなんとか取り戻さなければなりません。

これが、当面の課題です。

現在の活動を休止または縮小して、必要最小限の業務に留めるという選択もありますが、今後、共益事業や学生支援事業を継続し、さらに発展させるには、この事態を打破しなければなりません。

事態の打破に、道は二つあります。

- ・会費納入者を増やすこと
- ・会費の値上げをすること

●会費納入者を増やすこと

最近の『茗溪』で、会費関連記事が掲載されたのは、令和3年の秋号でした。

「各支部と会費の現状」の記述で指摘されているように、コロナ禍による支部等の会合中止が要因としてあります。

昨年、各支部では《四年ぶり》に支部の会合が開催され、本部からも参加させていただき、様々な情報を得ることができました。その中には、年会費に関する貴重な情報もありました。

▼会費（茗溪会費）が支部会費と混同されている。つまり、支部会費を納入していることで年会費（茗溪会費）を納入していると勘違いしている。▼自分が茗溪会員として登録しているかどうかわからない。

▼茗溪会に入会しようと思っていた。▼茗溪会費の納入方法がわからない。▼季刊誌『茗溪』が届かなくなった。

また、年会費を数年間未納の会員に入再開をお願いしたところ、多くの会員が納入を再開しました。クレジットカードでの納入切替えに応じた会員が多数いらっしゃいます。

このように、五万人の登録会員に向けて、年会費納入を促す行動を起していますが、即効性はありません。

●会費の値上げをすること

1971年、年会費は500円でした。

1972年に、1,200円となりました。

その翌年、筑波大学が開学しました。1974年に、2,000円となりました。

筑波大学入学式が挙行された年です。1977年に、3,000円となりました。

茗溪学園創設が決議された年で、翌年、筑波大学第一回卒業式が挙行されました。

このように、70年代に、年会費の値上げが立て続けにされています。

年会費が現在の3,500円となったのは、70年代最後の値上げから10年後の1987年のことです。翌年には、茗溪会館改築案が決議されています。

以降、年会費の値上げはありません。

他大学の同窓会費が6,000円（10,000円の時代に、3,500円）を通してきたのは、茗溪会が会員5万人を数える同窓組織であったからだといえます。

●会費の値上げのねらいについて

会費検討部会が、会費値上げについて検討を要請されたのは、昨年秋季の第75回理事会においてでした。

値上げのねらいは以下の2点です。

- (1) 会費会計の自立化を図り、資産会計を資産保全に充てる。
- (2) 現事業を精選しつつ、会員の交流や共益事業、学生の支援事業を可能な限り維持し発展させる。

問題は、値上げ幅です。

現状の活動の維持には、2,500万円（最低限度の資産会計の補填を許容）の会費収入を要し、そのためには、7,000人以上の会費納入者を前提とします。現在の会費納入者は2,700人弱ですから、2.5倍以上に納入者を増やすこととなります。

平成30年の会費納入数、約5,000人が当面の目標かと思えます。

次に10年前の平成24年（7,732人）を目指し20年前の平成14年（13,466人）を実現しなければなりません。

一歩踏み出して、会員を増やす努力も必要です。そのために、卒業生や在学生の中で「茗溪会の認知度を上げる」必要があります。現在、新たなネットワークの構築に向けて取り組んでいます。

会費(円)	会費納入者数(人)			
	2,700	4,000	5,000	7,000
3,500	9,450,000	14,000,000	17,500,000	24,500,000
5,000	13,500,000	20,000,000	25,000,000	35,000,000
6,000	16,200,000	24,000,000	30,000,000	42,000,000
7,000	18,900,000	28,000,000	35,000,000	49,000,000
10,000	27,000,000	40,000,000	50,000,000	70,000,000

- (1) 他大学の同窓会費(6,000~10,000円)を参考に試算した。
- (2) (二重枠)は、現活動維持費2,500万円の維持を示す。

これまでの学生支援事業に加えて、行事参加による広報活動や『つくば大学新聞』など、大学との連携を図り、「見える形での支援・連携」を展開するための予算化も必要です。

また、会費完納者(9,000人)にフェロー会員となっていたいただくことも、重要な道筋かと思えます。

企業等の団体加入についても、現在、検討中です。



追悼のつどい

令和五年十一月三日
於 茗溪会館

茗溪会設立13年目(明治28年)から始まり、茗溪会が大切に継続してきた「追悼のつどい」は、令和5年「文化の日」の11月3日、茗溪会館において執り行われた。観測史上初めてという暑さで、11月だというのに街には半袖の人も結構歩いていて、暦の上では秋も深まったというのに、日差しはまだまだ強いと感じる日だった。

この一年間にご逝去された会員の方は250名で、今回は17家族29名のご臨席をいただいた。加えて、茗溪会本部から多数の理事・委員も参加し、午前11時、開式となった。参列者一同の黙祷後、井口武雄理事長が「追悼の辞」を述べられた。ご参列が叶わなかった永田恭介筑波大学長のご挨拶は、太田圭学長特別補佐が代読された。その後、献花が行われ、ご逝去された17名の方の遺影と共に、厳かな雰囲気の中、追悼式は終了した。

追悼式の後、「茗溪の間」に場を移し、懇談会が始まった。ご遺族が語られた故人の人となりをお伺いし、皆で偲ぶ時間は、茗溪の歴史を紐解く貴重な時間でもあった。

● 故・五十嵐和夫(25理三)

長女 浅井 葉子 様

故郷山形で教育委員会での勤務や、校長職を務めた。植物が好きで良く山歩きをした。最近気が付いたが植物以



つてお礼を申し上げたい。

● 故・黒羽 亮一(24理二)

妻 黒羽 房子 様



高等師範学校卒業後、仕事をしながら帝大を卒業し、新聞記者になった。教育に興味を持ち、臨教審の専門委員等様々な日本の教育政策のブレインをやった。日本経済新聞勤務後は大学教育センターの専任教授となり、教育に関わり続けた。この追悼のつどいに参列し、卒業生を手厚く扱う茗溪会に驚いた。

● 故・唯根 大三郎(26文三)

妻 唯根 幸子 様



10年間、定時制の学校で教員を経験後、弁護士になる。『生涯現役』と言う自叙伝を執筆。その本の中に時間を惜しんで勉強したことが書かれているが勤勉な人だった。教え子が家に遊びに来たり、何人も仲人

外のことにも博学。高等師範で広く様々な学んだのだとわかった。母が高齢で参列できず、変わ

● 故・西野 虎之介(28教大農経)

妻 西野 照子 様



28年教育大卒業し、農林省に就職予定だったが「銀行」の家系ということで叶わなかった。

相当悔しい思いをしたようだ。しかし、のめり込む性格で78歳まで銀行に残り、顧問・相談役まで務めた。その後、茗溪学園理事長、茗溪会理事長を引き受けた。

● 故・岡野 照(35教大経)

長女 岡野 美知子 様



千葉で教育畑一筋。教員から校長職へ。参考書を書き、NHKラジオ通信高校講座の講師も何年も勤めた。定年後は、母が早くに亡くなり、20年間一人で暮らしていたが、茗溪の友人と過ごしたり、坂道歩きをしたり、人生を楽しんでいた。お世話になりました。

● 故・野口 鐵郎(30教大東史)

長女 大畑 千里 様

様々な高校、大学に勤めた後、筑波大学で教鞭をとった。自分がやると決め

た事はやりきるし、人に頼らなかつた。自伝を書いていたが、その中で、勉強にいそしんだ様子が書かれていて印象的



母を看取って6日後に急に具合が悪くなり亡くなった。

とても強い人。今回同行している息子も見習ってほしいと思っている。

● 故・飯塚 和明(31教大農化)

長女 飯塚 美和子 様



時代的に砂糖は貴重で、大学卒業後は、木材から砂糖を得る研究をし、その後、文部技官となり発酵の研究をした。「味の素」に勤務後はグルタミン酸の研究。アスパルテームの製品化で苦労し、その後、製品評価研究室を立ち上げ、自他社の製品の評価に尽力。後、岐阜県立女子短期大学に勤務した。学生と過ごした時間は楽しかったようだ。

● 故・石川 勝教(34教大体)

妻 石川 尚子 様

夫とは、軟式テニス部の先輩後輩で、昭和37年にこの茗溪会館で挙式した。夫は新人戦優勝、東日本大会で準優勝するなど力のある選手だった。中学の教員時代はアジア大会日本代表にもな



った。もともと軟式テニスは、高等師範で作られたというところで、母校に恩返しできた。

●故・古藤 怜(24大数)

長男 古藤 卓様



父は親の転勤に伴い、佐渡から埼玉に出てきた。東京文理大数学を卒業し、新潟大学で教鞭をとった。東京教育大学に異動し、その後、筑波大、上越教育大で教鞭をとった。97歳で亡くなったが、95歳まで数学教育に尽力した。

●故・根岸 甫(23筑修教)

妻 根岸 知子様



学校教育に熱心な人で、文部省から派遣されて英国で3年間日本人学校の校長職に就いた。

その後、日本でも校長として、強い思いで教育に携わった人だった。

●故・土生 寛(32教大体)

長男 土生 善弘様

卒業後宮城で教員。初めは東北大学



に入学したが、体育教育の最高学府で学びたいという思いで大学3年の時、東京教育大学に編入

学。常々茗溪の話を父から聞いて、自身も筑波大体育専門学群に進み、父と同じ道を歩むことになった。私自身は宮城の(茗溪会)支部長となり、コロナ前には一緒に宮城の茗溪会に出席した。

●故・長野 武夫(28教大経)

長男 長野 健一様



父から学生時代の話は聞いたことが無かったが、多くの素晴らしい方々と大学で学んでいたことを誇らしく思う。父は卒業後、銀行員として勤務。忙しい人だった。ゴルフのトロフィーが家にたくさんあった。銀行史を編集し退職。退職後は地域に親しみ、そして祖父の出版社を継いで記事執筆もしていた。

●故・関山 操(27理数)

長男 関山 秀男様

母は高等女子師範学校(現お茶の水女子大)に受験申込をしたが空襲の混乱で受験できなくなり、後に東京理科大に入学。私の祖父の影響か数学を専攻した。共立女子、湘南白百合で教



鞭をとったが生徒思いの教員だったと思う。数学がとても好きな人だった。早くに父を亡くし、

母には苦勞をかけた時もあった。母は94歳で亡くなる数日前まで、一人で元気に過ごし突然亡くなり驚いた。

●故・初瀬 弘平(31教大数)

長男 初瀬 玲様



退職後、突然色鉛筆で絵を描くようになり、色鉛筆協会副会長にもなった。様々なところに行き、写真を撮って熱心に絵を描いた。父の絵を見て二人で会話することが良くなった。亡くなる少し前から病気のため絵を描くことができず、残念。私が転職し教育関係の職に就き、教員経験のある父に色々アドバイスをもらい、大学時代の話も聞いた。

●故・斎藤 清一郎(35教大数)

長女 房野 慶子様



群馬で教鞭をとっていた。前橋西高校の新設校準備に関わったことがあったよう

だった。校長職で退職し、その後は囲碁将棋、庭仕事を趣味にした。家に数学の本がたくさんあり、数学の勉強はずっと続けていた。祖父も同じ大学だったので、私にとって親しみのある大学。6月に亡くなったばかりで供養と思いいこの会に参加した。

●故・高橋 進(38教大経)

長女 千葉 百合子様



父は、学ぶ事がとても好き。退職後、英語の勉強、全国の一里塚を調べ、古文書を紐解き、宮沢賢治の作品を研究したりしていた。大量の文献を残し急逝したので、どうしようかと思っている。父の学ぶ姿勢を見続けてきたが、私自身は愛情深く育てられたと感謝。

以上16名のご遺族の皆様の貴重なお話を伺った。素晴らしい先達に支えられて今の茗溪会があることを私達は改めて思い起こすことができ、新たな時代を見据えて歩む力をいただくことができましたひと時であった。ご逝去された皆様のご冥福をお祈りいたします。

(茗溪会理事 小泉いづみ)

「伝統は、革新と共にあり」

茗溪会元理事長 故・西野 虎之介

第13回 定時総会

日 時：令和6年5月23日(木) 13:00～15:00 (受付 12:00～13:00)
 会 場：茗溪会館 (2階 茗溪の間)

開 会

理事長挨拶

議 案

第1号議案 令和5年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認

第2号議案 令和6年度事業計画(案)及び予算(案)

第3号議案 年会費の値上げ

第4号議案 役員の選任

第5号議案 定款諸改定

報 告

閉 会

諸連絡(並行して別室にて理事会開催)



地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅徒歩3分
茗荷谷駅方面から見た茗溪会館

* 諸連絡の後、懇親会 (15:00～17:00)
 を開催いたします。
 お疲れのところ恐縮ですが、
 ご帰宅の時間を調整いただき、
 ぜひご参加願います。

令和6・令和7年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群
筑波大	伊藤 純郎	昭56筑一人文	東 京	掛谷 一夫	平2筑一社会	愛 知	丹後 茂	昭63筑体
筑波大	山澤 学	平11筑博歴人	東 京	飯島 睦子	昭56筑修教	岐 阜	増田 智至	昭63筑二農林
名誉教授の会	大嶋 建一	昭44東北大理	東 京	井上 芳明	平1筑体	滋 賀	樋口 康之	昭61筑体
北海道	川口 淳	昭56筑一自然	東 京	海老沢敬子	昭62筑二農林	三 重	岡村 芳成	昭63筑一自然
青 森	工藤 清彦	昭61筑体	東 京	久保 淳	昭56筑体	京 都	三橋 利彦	昭58筑体
岩 手	高橋 縁	昭60筑二人間	東 京	笹 のぶえ	昭56筑二比文	大 阪	戸井田克己	昭59筑二比文
宮 城	土生 善弘	昭62筑体	東 京	高橋 誠	昭42教大心	大 阪	近藤 潤	昭59筑体
秋 田	筒井 勝	昭62筑体	東 京	竹村 恭一	昭56筑一自然	兵 庫	岸部 健司	昭63筑体
山 形	津田 浩	昭58筑一自然	東 京	堀川 勝史	昭61筑体	奈 良	谷垣 康	昭53筑一人文
福 島	伊豆 幸男	昭55筑一自然	東 京	三橋 浩志	昭63筑一自然	和 歌 山	森 文哉	昭63筑体
茨 城	秋本 光徳	昭61筑一人文	東 京	金田 喜明	昭56筑一人文	鳥 取	小倉 健一	昭53筑体
茨 城	中澤 斉	昭60筑一自然	東 京	田中 修	昭54筑二農林	鳥 根	西村 覚	昭61筑体
茨 城	中島 博司	昭57筑一人文	東 京	松村 直樹	昭61筑修環	岡 山	長尾 隆史	昭55筑体
茨 城	高村 祐一	昭61筑一人文	神 奈 川	大石 進	昭56筑体	広 島	大辻 明	昭47教大体
茨 城	中根 一明	昭56筑三社工	神 奈 川	中野久美子	昭57筑体	山 口	開地 元典	昭59筑二生物
栃 木	前橋 均	昭62筑二比文	神 奈 川	石川 裕子	昭57筑二人間	徳 島	藤川 美和	昭63筑一人文
栃 木	小島 雄一	昭63筑一自然	神 奈 川	加藤 充洋	昭56筑一社会	香 川	土居 真也	昭63筑体
群 馬	今井 貴子	昭63筑体	神 奈 川	塚本 格	平8筑三社工	愛 媛	川野 光正	平2筑体
埼 玉	細田 幸一	昭50教大独	山 梨	小林 智	昭63筑修教	高 知	楠瀬 誠悟	昭61筑一自然
埼 玉	小林 一郎	昭52教大國	長 野	石川 裕之	昭60筑一人文	福 岡	加藤 茂文	平5筑修体
埼 玉	平野 正美	昭54筑二比文	長 野	宮坂 博昭	昭61筑二比文	佐 賀	松雪 誉	昭61筑体
千 葉	猿渡 末治	昭55筑一自然	新 潟	中島 郁雄	昭53筑体	長 崎	岩橋 英夫	昭63筑体
千 葉	山崎 成夫	昭56筑体	富 山	中村 謙作	昭62筑一自然	熊 本	田畑 淳一	昭62筑二農林
千 葉	渡部 徹	昭57筑一人文	石 川	居村 吉記	平1筑体	大 分	加藤 寛章	昭62筑体
千 葉	西川 和樹	昭59筑一自然	福 井	牧野 保彦	昭63筑一自然	宮 崎	児玉 洋一	平2筑三社工
東 京	柳 久美子	昭50教大體	静 岡	石川 徹	昭63筑一人文	鹿 児 島	黒木 哲二	昭62筑二比文
東 京	眞當 哲博	昭57筑二人間	静 岡	鈴木 康之	平2筑修教	沖 縄	前門 晃	昭58筑博理
東 京	浅井 一郎	昭55筑一人文	愛 知	竹下 裕隆	昭56筑一社会			
東 京	栗原 茂夫	昭55筑二比文	愛 知	柴田 悦己	昭61筑二比文			

令和6年度 地域組織の役員及び総会等の予定

*2024/3/22現在

No.	名称	支部長・会長	連絡窓口	メールアドレス	開催予定日時	開催予定場所	備考
1	筑波大茗溪会	伊藤 純郎	野崎 芳恵	tsu3jimu@meikei.or.jp	R6.7月中旬、R7.2月下旬	筑波大学学生会館	
2	名誉教授の会	大嶋 建一	新井 達郎	emeritus@meikei.or.jp	R6.10月中旬	筑波大学学生会館	
3	北海道茗溪会	川口 淳	尾形 友秀	hokkaido@meikei.or.jp	R6.5.11(土)	TKPガーデンシティ札幌駅前	
4	青森支部	工藤 誠司	工藤 誠司	aomori@meikei.or.jp	未定	未定	
5	岩手支部	高橋 緑	清水 茂幸	iwate@meikei.or.jp	R7.1.11(土)	ホテルメトロポリタン盛岡	
6	宮城支部	土生 善弘	山崎 健二	miyagi@meikei.or.jp	R6.11.30(土)の予定	ホテル白萩	
7	あきた茗溪会	筒井 勝	田口 良実	akita@meikei.or.jp	R6.9.7(土)	未定	
8	山形県支部	石山 宣浩	武田 宏典	yamagata@meikei.or.jp	R6.11月下旬	未定	
9	福島県茗溪会	伊豆 幸男	渡邊 優輔	fukushima@meikei.or.jp	R6.7.6(土)	コラッセふくしま	
10	茨城茗溪会	海老澤 浩一	花沢 典行	ibaraki@meikei.or.jp	R6.8.11(日)	ホテルレイクビュー水戸	
11	栃木県茗溪会	前橋 均	今井 和彦	tochigi@meikei.or.jp	R6.7.20	ホテルニューイタヤ	
12	群馬支部	小林 智宏	飯塚 勇一	gunma@meikei.or.jp	R6.8.17(土)	メトロポリタン高崎	
13	埼玉支部	春山 賢男	青木 勇藤	saitama@meikei.or.jp	未定	未定	
14	千葉支部	百瀬 明宏	大久保利宏	chiba@meikei.or.jp	未定	未定	
15	東京茗溪会	高橋 基之	花上 克宏	tokyo@meikei.or.jp	未定	未定	
16	神奈川茗溪会	加藤 充洋	大石 進	kanagawa@meikei.or.jp	R6.7.20 11時半～	ホテル・ザ・ノットヨコハマ	
17	山梨支部	小林 智	佐藤 朗	yamanashi@meikei.or.jp	R6.7月下旬	未定	
18	長野県支部	石川 裕之	卯之原勇輝	nagano@meikei.or.jp	R6.6.23(日)	ホテルモンターニュ	
19	新潟茗溪会	中島 郁雄	山下 幸治	niigata@meikei.or.jp	R6.6.29(土)	ホテルサンルート新潟	
20	富山支部	中村 謙作	寺崎 啓子	toyama@meikei.or.jp	7月	富山電気ビルディング	
21	石川支部	居村 吉記	神田 康	ishikawa@meikei.or.jp	未定	未定	
22	福井県支部	牧野 保彦	田崎 忍	fukui@meikei.or.jp	R7.2月	嶺南地区	
23	静岡県支部	石川 徹	鈴木 康之	shizuoka@meikei.or.jp	R6.6.22(土)	茄子の花 無庵	
24	愛知支部	竹下 裕隆	丹後 茂	aichi@meikei.or.jp	R6.7.7(日)	ルブラ玉山	
25	岐阜茗溪会	増田 智至	水野 裕子	gifu@meikei.or.jp	未定	未定	
26	三重茗溪会	岡村 芳成	若宮 一哉	mie@meikei.or.jp	R6.7月上旬	未定	
27	MKS (関西ブロック)	香山 恭慶	香山 恭慶	kayama1547@outlook.com	R6.11.21(木)	道頓堀ホテル	
28	滋賀支部	脇坂 高峰	長瀬 慎吾	shiga@meikei.or.jp	未定	未定	
29	京都茗溪会	三橋 利彦	遠山 秀史	kyoto@meikei.or.jp	R6.11.9(土)	ホテルグランヴィア京都	
30	大阪茗溪会	戸井田克己	北邨 淳	ohsaka@meikei.or.jp	R6.6.1(土)	道頓堀ホテル	
31	兵庫支部	岸部 健司	新井 友彦	hyogo@meikei.or.jp	R6.6月	未定	
32	奈良茗溪会	谷垣 康	井上 徳之	nara@meikei.or.jp	未定	未定	
33	和歌山茗溪会	森 文哉	玉出 慎	wakayama@meikei.or.jp	R6.7月	和歌山市内のホテル	
34	鳥取県茗溪会	小倉 健一	美多賀鼻孝裕	tottori@meikei.or.jp	R6.7月	鳥取市	
35	島根県支部会	境 英俊	西村 覚	shimane@meikei.or.jp	未定	未定	
36	岡山支部	長尾 隆史	長尾 隆史	okayama@meikei.or.jp	未定	未定	
37	広島支部	大辻 明	若井 研治	hiroshima@meikei.or.jp	未定	未定	
38	山口支部会	吉本 晃	藤本 秀夫	yamaguchi@meikei.or.jp	未定	未定	
39	徳島茗溪会	藤川 美和	森 誠一	tokushima@meikei.or.jp	R6.7.20(土)	ホテルグランドパレス徳島	
40	香川茗溪会	土居 真也	迫田真由美	kagawa@meikei.or.jp	R6.11.	未定	
41	愛媛茗溪会	川野 光正	辻岡 英幸	ehime@meikei.or.jp	R6.8.4(日) 12時～	にぎたつ会館	
42	高知茗溪会	楠瀬 誠悟	手林 慎一	kouchi@meikei.or.jp	未定	未定	
43	福岡茗溪会	中神 智文	片山 英和	fukuoka@meikei.or.jp	R6.7.6 18時	未定	
44	佐賀県茗溪会	松雪 誉	松本 真知	saga@meikei.or.jp	R6.6.1(土)	EAT AND DRINKS E.A.D	
45	長崎茗溪会	岩橋 英夫	井出 英介	nagasaki@meikei.or.jp	R6.6.22(土) 13時～	セントヒル長崎	
46	熊本支部	田畑 淳一	河崎 剛	kumamoto@meikei.or.jp	R6.6月下旬	未定	
47	大分県茗溪会	加藤 寛章	押田 武	oita@meikei.or.jp	R7.2月	大分市内	
48	宮崎県支部	川井田和人	児玉 洋一	miyazaki@meikei.or.jp	未定	未定	
49	鹿児島茗溪会	黒木 哲二	前 和樹	kagoshima@meikei.or.jp	未定	未定	
50	沖縄茗溪会	前門 晃	三輪 一義	okinawa@meikei.or.jp	未定	未定	

第5回茗溪会 医薬品関連業界交流会

2024年1月21日(日)、茗溪会館にて第5回医薬品関連業界交流会が開催され、オンラインも含めて12名のメンバーが集いました。

医薬品が開発されてから患者様の手元に届くまでには、開発、製造、流通など様々なプロセスが関わっていますが、そのスタート地点である開発では、さらに次の3つの段階での検証が行われています。

まずは基礎研究(医薬品の候補となる物質のスクリーニング)、次に非臨床試験(動物実験)、そして最終的に臨床試験(人を対照とする)の3段階です。



そして臨床試験では、さらに第1から第3フェーズまで段階があり、最終の第3フェーズでは、実際に当該疾患を持つ患者さんを対象にその安全性と有効性の検証が行われます。この際、科学的エビデンスに基づいた客観的な検証を行うために、統計学の手法が導入されています。

そこで今回の交流会では、生物統計についての基礎を皆で学びました。

AMED 藤江昭彦さん(60修農学)座長のもと、過去に外資系製薬企業の日本法人で統計部門の責任者を務め、現在シミック(株)でコンサルティングの業務に携わっている大石雅彦さん(57修環境)より生物統計に関するレクチャーがあり、以下のような内容が紹介されました。

「皆さんご承知のように、新薬が上市される際には、あらかじめ臨床試験が実施されます。臨床試験は第一相から第三相試験までありますが、第三相試験では治療の対象となる実際の患者さんを対象にして試験が行われます。そこで治療の効果を検証するために、試験デザイン(プロトコル)が設定され、それに基づいて試験が行われます。

臨床試験で重要なことは、
1. 選択基準(除外)の設定↓どのよ
うな症例を試験の対象とするか(あ
るいはしないか)

2. 主要評価項目↓どのような評価項

新薬の臨床試験で効果を検証するための手順

新薬の臨床試験は、サイコロを何回か振った時に、ある目が何回も続けて出た時に、「目の出方が偏ったサイコロではないか」と疑うような考え方で進めます。すなわち、最初に新薬には効果がないという仮説を立て、試験で得られたデータが仮説の下では確率的にまず起こらないことを統計解析で示し、背理法によって新薬に効果があることを示します。

手 順	サイコロの目の出方を検証	新薬の効果を検証
最初の仮定	サイコロの目の出方は均等	新薬とプラセボの効果は等しい(帰無仮説)
試験の実施	サイコロを振る	臨床試験を実施する
試験の結果	3回とも「1」の目	新薬の結果がプラセボを明らかに上回る
その結果が起こる確率を計算する	0.46%	例えば、 $p < 0.01$
普通には起こりえない事象が発現している(偶然の結果の域を超えている)		
最初の仮定が誤り		
結 論	サイコロの目の出方は均等でない	新薬とプラセボの効果は等しくない(対立仮説)

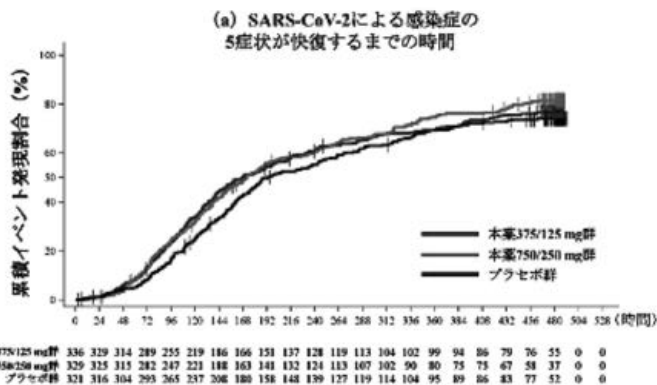
目によって治療薬の効果を判定するか
3. 判定基準↓上記の各評価項目において、どのレベルに到達すれば効果があった(なかった)と判断するか

選択基準では、例えば、年齢、性別、評価対象とする疾患の重症度、発症時期、罹患している期間、合併症の有無、基礎疾患の有無、家族歴などについて検討。

評価については、例えば、症状が快復する、快復する時間を早めることができる、症状の悪化を防ぐことができる、複数の症状がある場合には症状の数が軽減する、入院が必要とされる症例を抑制できる、入院日数を減らすこととができる、悪化するまでの期間を延長することができる等について検討。
これらの項目について、統計的理論に基づいて客観的に評価する手法が用いられます。

具体的には、評価するべき治療薬を投与した場合、投与しなかった場合(対照群、プラセボ(効果のない偽薬)、比較薬)に比較し期待する効果が見られたかどうか、どの程度見られたかを判定し、プラセボ群(対照群)に対して統計学的な有意差が認められれば当該医薬品の効果が検証されたこととなります。

例えば、ハザード比(死亡リスク)が0.65であるならば、治療薬は対照群と比較し死亡リスクを35%低下させることができるということになります。



ゾコーバの試験結果 (医薬品医療機器総合機構の審査報告書からの引用)

なお、試験の途中でのプロトコルの変更や、脱落例の発生による影響など、検証には様々なバイアスがかかることもあり評価解釈には難しさもあります。

一方、医薬品の評価としては、統計学的な有意差とともに、実臨床での効果(治療のエンドポイント)を明確にしておくことも大切です。

臨床試験で有意差があっても、実際の臨床現場で患者さんに投与したところ、期待していた効果が見られない(またはその逆)こともあります。

また実臨床としては、副作用の種類やその発現頻度及び重症度等も大切な情報です。とくに新薬の場合は使用症

例数も限られているため、確実なPMS(市販後調査)が求められます。さらに実臨床では承認時の適用以外の効果が現れることもあり、このような情報を蓄積するためにもPMSは欠かすことができません。

なお、医療経済効果についても、臨床試験が行われた期間のみならず、中長期的に効果がどの程度継続するのか? プラトリーになるのか? 症状の改善が見られたら治療を中止しても良いのか? あるいは継続の必要があるのかなのか? など、臨床試験では得られない情報についても収集と検証を続けていくことが大切です。

現在、承認が待たれる医薬品は数多くありますが、緊急承認、早期承認、条件付き承認など疾患により特殊なケースがあり、ワクチンの開発等はその緊急性から緊急承認となる場合があります(例COVID-19)。

以上のように、医薬品の評価には、統計学的エビデンスが得られること、臨床上の治療効果が現れることの両面から検証アプローチおよびその継続が大切であり、医療機関、公的組織、関連企業、製薬メーカー等において

コミナティの試験結果 (医薬品医療機器総合機構の審査報告書からの引用)

群	コミナティ	プラセボ
接種例	18,198人	18,325人
発症例	8人	162人
総追跡期間	2,214人・年	2,222人・年

また、続く質疑応答およびフリーディスカッションでは、臨床試験において投与量、投与期間を変更したらどうなるか? 比較対照薬を変えたらどうなるか? 今後の感染症対策は? ワクチンを作るにはどのくらい時間がかかる? などの質問討議があり、大変盛り上がりしました。

大石さんのレクチャーは、1時間の予定を超えて2時間にも及びましたが、生物統計の基礎及び医薬品の承認に至るまでの検証プロセスの複雑さ奥深さを学ぶことができ、大変有意義な交流会でした。

また、茗溪会キャリア支援の滝下さんより、交流会ネットワーク通じて、医学系学生さんとのコミュニケーションの場などにも発展すると良いのではとの話題提供もありました。

茗溪会医薬品関連業界交流会は今回で5回目を迎えました。会を重ねるごとに、メンバーの個性や人柄がお互いにわかるようになり、おのずと討議も深まり、魅力的な交流会に育つてい



交流の輪を広げませんか?

- 他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。交流の輪を広げませんか? 交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先にご一報下さい。

茗溪会事務局 (大塚事務所)
 ☎ 03-3941-0136
 E-mail : peer@meikei.or.jp

るように思います。共通のテーマや問題意識で語り合う時、決して薬学部出身である必要はありません(笑)。

なお、次回第6回は6月22日(土)14時より開催予定(仮)です。確定しましたら茗溪会ホームページにてご案内申し上げますので、皆様のご参加をお待ちしています。

(茗溪会医薬品関連業界交流会事務局 野口道子(H3年理工修卒)記)

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？



そびゆる数学像の裾を
ひそかに支えることの意味

正月26日付けの便りが届いた。八王子在住の田中尚夫氏からの手紙である。「茗溪アルバム」正月号に掲載された上の写真のことである。右端の松下昭彦、その隣の村杉邦男について記されていた。

同級生の田中は、法政大学名誉教授で、近々に、『記述集合論要説』（日本評論社）が出版予定されている。

「村杉君は理学博士カナダトロント大学名誉教授、数学の「結び目」理論の大家、1993年秋、日本数学会賞受賞、カナダトロント在住です」とのこと。

こうして、貴重な情報が寄せられる。ありがたく嬉しいことではある。

●小松喬生(S24理1)のノート

裏表紙が剥がれて痛んだ書籍がある。縦17cm、横15cm程の方形で厚さ2cm、濃紺の厚手の紙で装丁されている。



「中学生の基礎学習 数学ノート(1)」
東京教育大学教授鍋島信太郎
東京学芸大学附属中学教官小松喬生
共編 合本定価180円。
昭和28年4月20日、二宮書店

「このノートを通して 皆さんに」
の中で、こう記している。

親愛なる皆さん。私は、このノートを通して、皆さんと理解の糸を手繰りあえることを、非常に嬉しく思っております。なぜなら、私共の一人は、つね日ごろ、皆さんの幾人かと学習を共にしており、「ここでは、このことを、やるとよい」とか、「そこは、このように考えたらいいのではないか」と、感じていることを、広く皆さんに話しかけることによって、まとめることができるからなのです。

ここに私共は、紙面の許す限りの例題解説と演習問題を、皆さんの理解が確実に秩序正しく積まれるように、配列し、なるべく誰にでも、便利なように、心がけました。あるところでは、よく経験を重ねるように、まわり道をして貰うように工夫したところもあります。

そして、このノートが全部終了したとき、皆さんが、数学に興味と、理解と、技能について確実にして、強固な基礎が築かれることを、ひたすらに、

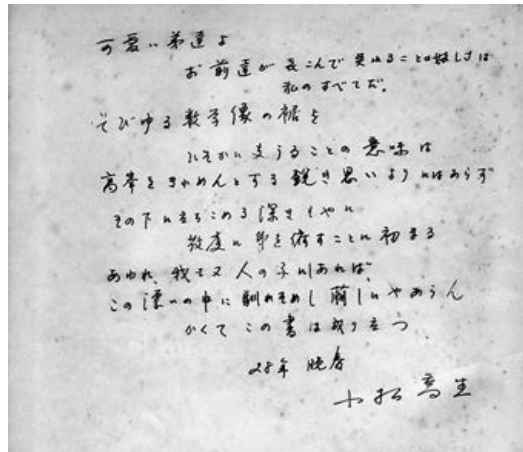


願ったのであります。どうか、皆さん、大きな希望をもって、努力して下さい。合本定価とある。三部構成で、各部分80頁で構成され、一頁完結となっている。

各頁、【例示】【練習問題】【テスト】が基本形として配列されている。

《四捨五入》では、「悪い計算」と「良い計算」が例示され、丁寧な心配りが随所に見られる。

裏表紙に、小松のメモがあった。



そびゆる数学像の裾をひそかに支えることの意味は、高峯をきわめんとする鋭き思いよりはあらず。その下に立ちこめる深きもやに敬虔に身を俯すことに初まる。

あわれ、我も人の子にあれば この漂いの中に馴れせし萌しにやあらん。かくて、この書は成り立つ。

「28年 晩春」とあるので、初刷を手にして、記したものと思われる。

小松は、昭和2年6月の生まれだから、大学を卒業して3年目、25歳の春である。

初仕事を成し遂げた高揚感と若き数学徒としての使命感が伝わってくる。

「数学ノート」が出版された昭和28年に、東京教育大学大学院教育学研究科内に理数科教育講座として数学教育学研究室が開設されている。講座開設にあたっては、杉村欣次郎、小林善一、そして、鍋島信太郎の多大な努力があったと、筑波大学数学教室研究室のホームページに「研究室の歴史」として記されていた。

小松の履歴書によれば、この「数学ノート」が出版された翌年に、文部省教材等調査研究会委員となっている。

お嬢様（富山美知子さん）から頂戴したメモに、「昭和二十六年から、鍋島先生を主幹とする中学校数学教科書をご一緒させて戴いた」と、小松は記している。

鍋島は和歌山県橋本の出身である。小松の出生地は三重の津。橋本とは紀伊山地を挟んで東西の位置にある。

鍋島は、東京高師卒の東京教育大学教授であったが、「数学ノート」が刊行して3年後の昭和31年に退官した。還暦を迎えた老教授と二十代の新進

気鋭の数学徒は、その後、二つの参考書を、同じ二宮書店から刊行している。「中学生のための数学の基礎と研究」が発行となったのは、鍋島が退官した翌昭和32年である。



「数学の基礎と研究」
二宮書店 定価200円
昭和32年5月30日

「中学生のための構造式数学問題集」は学年三分冊で、箱入りである。



「中学生のための構造式数学問題集」
二宮書店 定価45円
昭和35年6月5日発行

●戦後の教科書

戦後民主化の一環として教育改革が行われた。昭和22年に、最初の学習指導要領が試案という形で示され、昭和24年以降、民間が編集した教科書が発行されるようになっていた。

昭和26年には、教科間の連関を図るなどの改善を加えた形で、昭和22年版の学習指導要領の改訂版が示された。この指導要領では、生活単元学習や問題解決学習が取り入れられていた。

『数学の基礎と研究』が出版された昭和32年以降、日本経済は高度成長期に入り、国民総支出は上昇の一途を辿る。

一方、経産業界が科学技術教育の振興や人材育成を文部行政に要請するなど、教育を取り巻く状況が変化していた。

『数学の基礎と研究』と『中学生のための構造式数学問題集』の期間は、勤評闘争や学テ闘争などによって教育が社会問題として時代の表に出てきた頃であり、改訂学習指導要領が法的拘束力を付与されたのもこの頃である。

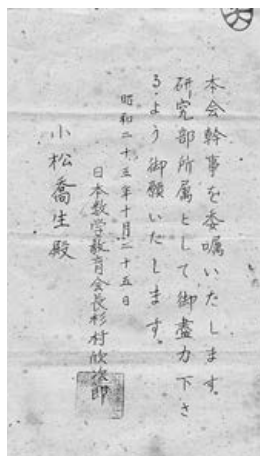
昭和33年改訂の学習指導要領の特徴は、従前の経験主義教育を改善し、系統主義学習を重視して、さらに基礎学力の育成が強調されたことであった。先の学習指導要領の柱となっていた生活単元学習や問題解決学習に対して学力の低下が叫ばれ、身につけさせるべき学力とは何かが論じられるようになっていた。

このような時代の変化は、数学教育に新たな発展段階への適応を迫っていた。数学教育学の研究が、大学の研究室

や数学教育学会、教研集会等で盛んに行われたのもこの時期である。

一枚の紙片がある。日本数学教育会の会長であった杉村欣次郎から小松への委嘱辞令である。日本数学教育会は、大正8年に日本中等教育数学会として発足し、昭和44年に日本数学教育学会と改称している。

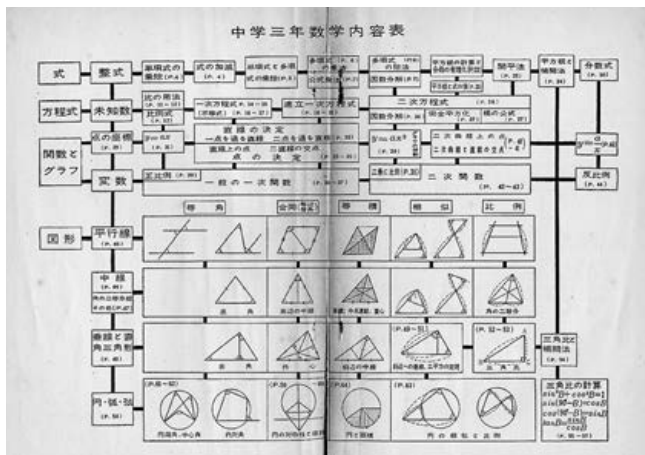
昭和24年、東京高師を卒業した小松は、東京第一師範学校に奉職した。辞令は、その翌年のものであり、その年、『中学校教育の理解と実践』が学芸図書から出版されたが、小松は、「ゲシュタルトと知能の実証的考察」を分担執筆していた。



その後、小松は、明治図書書の「教育科学 数学教育」に頻繁に寄稿しているが、最初の寄稿は第5巻1号であった。「教育科学 数学教育」は、昭和35年に第1巻第1号が刊行されている。

4年後に東京オリンピックの開催が控えていた。日本の国際社会での役割が意識され始め、教育内容について一層の向上が叫ばれるようになっていた。

国際的展望をもった数学教育の発展が期待された。この潮流の中で、数学教育の科学化への動きが始まった。



「教育科学」とは、このような脈絡から生まれた術語ともいえる。教育学は、その国特有の文化により性格も特色も異なる。ドイツの教育学は教育哲学の傾向をもち、フランス教育学は心理学や社会学を柱としている。戦後日本は、時代の要請として数学教育の科学科を推し進め、教育現場では、教科としての数学の内実を構築していく。

この内発的な動きは、昭和50年代後半から60年代にかけてのもので、小松は、この時代とともに歩いた

昭和60年に発行された『中学生のための構造式問題集』の各巻頭に、学年ごとの「内容表」が提示されていた。

大塚本館が学生に占拠されたのは、この年の6月で、混乱は收拾されぬまま、東教大は、紛争校の中でも「最重症校」といわれた。10月に新宿騒乱があった。その翌週、茗溪会は、日比谷公会堂の寮歌祭に初出場して喝采を浴びた。

東京教育大学に数学教育学研究室が開設されたことを記したが、同研究室のホームページに戻る。



24年理一会 (1968. 8. 6)

左の写真は、東京高師理一を昭和24年に卒業した方々の記念写真である。昭和33年、卒業後10年目の会合だろうか。東京オリンピックの興奮から4年が過ぎていた。学園紛争の時代でもあった。

小松喬生の遺族のご厚意により頂戴した遺品を基に、尊ゆる数学像の裾を密かに支えた数学徒の半生を辿ってきた。

舞台は東京教育大学、青春を謳歌した同窓を新たに登場させようと思う。



追悼のつどい (2023/11/3)
写真は追悼式の様子、その後、会場を移して懇談会が開かれた(詳細は6～7頁)。

その後、講座主任の和田義信は大学紛争時に教育学部長として労苦を重ねた。

和田の後任、そして、筑波大学教育学研究科数学教育学研究室の初代教授となったのが古藤怜であった。古藤は、筑波移転に際して、理数科教育講座を分離し、筑波大学大学院修士課程数学教育コースを設立した。その後、古藤は上越教育大学へ転任した。

昨年令和5年11月、「追悼のつどい」が行われた。古藤怜(S24文理大教、令和4年9月12日逝去)の長男夫妻が新潟から参列した。茗溪会事務局のスタッフにも古藤の講義を受けていた者がいた。

思い出の品々の寄贈 (お願い)

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

- ご寄贈いただく「思い出の品々」について
 - 「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
 - ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。
- 送り先
 - 電子資料は、メールにて (peer@meikei.or.jp) までお送りください。
 - 郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛にて願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内 (電話 03-3941-0136)

上田晃嗣	岩村雅朗	岩崎充益	猪又英夫	井口武雄	伊藤行生	伊藤紘美	伊藤典明	伊東博明	伊藤恭滋	出浦淑枝	市橋功	市川敏美	板本正夫	井田洋一	石渡和実	石山宣浩	石原みち子	石川尚子	伊佐間久	井川治	荒木雅信	新井保幸	新井達郎	阿部聖仁	阿部孝昭	浅見高明	浅井康明	穂吉修	赤堀利恵子	赤堀直紀	赤川雅和	青山和義	青木俊輔	阿江通良	相川良雄	
河野文隆	小池一郎	小畔東	倉橋裕紀子	國吉哲郎	木下朋雄	木下貴雄	北原保雄	菊池一隆	菅野等	川本太郎	河村真	川村泰史	川又章	河合学	加藤信哉	勝水敬哲	籠島充	恩田和也	小野寺広	小野通明	小沼賢治	小澤裕理	岡田一郎	大山和広	大村武司	大貫義人	大西真果	大友理恵子	大塚雄一	大谷早百合	太田初美	江田昌佑	内野春喜	内田康	上松豊	上原英正
高野だいわ	高野昌司	高津浩彰	高田雅博	高岡正幸	曾我烈人	瀬藤康夫	関口莊次	須山弘志	炭竈由彦	鈴木英全	鈴木進	杉澤輝秀	白田佳子	下田好行	島谷弘幸	志甫英一	柴田恵美子	篠澤卓也	山海嘉之	澤田順子	佐藤勇二	佐藤弘庸	佐藤豊実	佐藤徹	佐藤忍	佐々木甫	笹川和輝	坂田八千代	坂田信久	今春敏	小林詢	小島正徳	小成幸男	後藤光将	後藤宏美	古賀正義
野中不二男	根市均	西村伸平	西海賢二	難波完爾	生井榮一	夏目幸一郎	中山芳典	中村伸夫	永田昭男	中島弥栄	中島耕士	仲沢市夫	中川雅史	中川一彦	内藤郁芳	塘添敏文	富永敏郎	寺崎順	寺尾壽幸	手塚章	鶴見尚弘	筒井将隆	土崎祐一郎	千葉徹	千輝克忠	田淵英樹	田中礼子	田中守	田中正夫	田中正	田中誠一	立石秀樹	田代直幸	高山潤一	田上修	高橋砂織
(五十音順・敬称略)	渡辺幸次	吉田正之	横山直也	山西哲郎	山口松太郎	山神眞一	山内研二	山井今朝雄	八代勉	安田昭子	矢島奈津枝	YEM Vihol	諸澄信孝	森口英幸	村山諒司	村井正	三輪一義	三船新次	御園祐美	溝口繁美	松永泰典	松崎弘志	増原光彦	真砂芳夫	星野和彦	藤本愛子	福原啓介	蛭田成一	平本悦二	平根健夫	平岡亮	土方多美枝	原田満彦	浜竹学	長谷川二三	長谷川聖修

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として、皆さまからの寄付をしていただき、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円/年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上

郵便局窓口またはATMから送金してください。

会員番号は必ず記入してください。(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)

クレジットカードでのお支払いもできます。詳細は事務局までお問い合わせください。

- 3 季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。
- 4 納入口数に応じて、記念品を贈呈しております。

桐の葉のつどい 同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆第3回東京教育大学体育学部昭和52年卒同期会

とき 令和6年3月6日(水)

ところ ホテルハーヴェスト京都鷹峯・楼蘭

卒業して約半世紀。コロナ禍を経て春を待ちこがれるころ、京都に全国から50名が集い久々の再会を喜び合い、懐かしく楽しい一時を過ごすことができました。全員で肩を組み宣揚歌を合唱。皆心は学生時代に戻っていました。「関東一本締め」でお開きとなり、次回も互いに元気で参加できるように誓い合いました。

(文責：関根美智子/旧姓神宮)





茗溪倶楽部 やどかい MEIKEI crab

(1) MEIKEIは「茗溪」のローマ字
(2) crabは、「やどかい(hermit crab)」の英訳
「club」を「crab」に、洒落ました

伝えたい なかま 同窓のこと

能登半島地震

年明け早々、大災害の報道が世界を駆けた。元日の夕方四時過ぎに、能登半島で発生した内陸地殻内地震である。大地震により半島内は交通遮断となり、厳寒の中で救援態勢がまだ整わない状態に追いやられている。

茗溪会事務局は、休み明けに、石川支部の田井友章支部長に電話をした。被害の全容が不明で、会員の連絡もままならない状態ということであった。混乱を極めている様子が電話の向こうから伝わってきた。受話器を置いた。

2月10日(土)の夕刻、岐阜茗溪会総会があった。4年ぶりの会合に30名以上が集い、賑わいの中で会は進んだ。

参加者の自己紹介が行われた。若い順で、5人目に、宮脇亜紗美(H21筑人文)が挨拶に立った。東京から駆け付けたということである。昨年来、岐阜県教育委員会事務局指導主事から文部科学省初等中等教育局に出向中である。増田智至(S63筑一農)新支部長が宮脇の挨拶を補足した。「宮脇さんは、能登半島地震で学校を失った子供たちのために、文科省スタッフの一員として石川県で学習補助の活動をしていました。」

岐阜の会合の後、場所を変えて詳細を訊きたいと思い、宮脇に声をかけた。

前日まで金沢にいたということで、会合後、東京に戻るということであった。

宮脇は、「白線流し」で有名な岐阜県立斐太高校を卒業しており、実家は飛騨にある。実家に立ち寄らず、東京に戻った。同窓会に遠路はるばる駆けつけて引き上げる。茗溪の矜持をお持ちの御仁である。

宮脇は、「ギガスクール構想」推進スタッフ(14名)の一員として霞が関で勤めている。岐阜以来の再会は、3月初旬の夕刻、茗溪会事務局であった。

文科省スタッフの石川県派遣は、3月の時点で第六陣。第一陣は宮脇と男性スタッフ2名であった。

一月末に、被災地における学習指導に携わる派遣要員について、省内で意向確認があった。

宮脇が手を挙げた。



文科省内の宮脇亜紗美(H21筑人文)さん

同窓、被災地へ赴く

宮脇レポート

2月5日(月)から2月9日(金)までの日程で、金沢市内の医王山スポーツセンター(金沢市)において全国の都道府県市から派遣されたスタッフ(教員・指導主事等)の一員として、令和6年能登半島地震の影響で集団避難している中学生の学習支援に従事しました。

派遣先の医王山スポーツセンターでは、当時中学生約120名が、引率の教員約15名とともに集団生活を送っていました。同一学年の生徒をひとつの「学級」に、施設内の研修室を「教室」に見立てて学級活動や授業を行っています。引率の先生はご自身も被災者でありながら、学習面のみならず生活面・健康面の責任も果たしながら勤務していらっしゃいました。スポーツ施設であることから、避難開始当初は授業をする環境が十分に整っておらず苦労したと伺いました。私が派遣された時点では、ホワイトボードに加えて電子黒板も持ち込まれており、授業をやりやすい環境にするべく改善が図られていました。生徒は教科書の他に1人1台の端末(医王山にいた生徒たちはノートPCを使用。自治体や学校によってはタブレット端末を使用している場合もあります)を持っており、授業や学級活動(アンケートや連絡等)で使用しています。

派遣期間中には私立高校の合格報告という明るい話題もありました。

派遣決定から金沢まで

文部科学省からも支援教員を派遣するとの知らせを受け、対応可能との返事をする。翌週の派遣が決定。金曜日には、省内から第一陣として派遣される職員の出発式を実施していただきました。土日の間に教科書や手持ちの中で比較的暖かそうな服、上履き用のスニーカーなど荷物を準備しました。雪の予報を知りつつも、近所で雪用の靴を手でできず、いざとなったら金沢で購入することに。

2月5日、新幹線に乗って一路金沢へ。午後、到着するといよいよ雪は激しくなり、駅周辺でまずスノーブーツを購入。派遣先は市内でも積雪の多い場所であったことから、スノーブーツは私の足元を守ってくれる心強い相棒となりました。この日は打ち合わせと施設案内、授業分担のみで終了。学習指導のために5教科6名（社会科のみ2名、他は1名）の教員が全国各地から集まりました。

学習支援スタート

翌日以降は市内のホテルから出勤し、8時〜16時半の勤務。17時には退勤しますが、その後はホテルの部屋で業務記録の作成や翌日以降の授業の準備等を行います。勤務時間だけで業務が終わらないのは教員時代を思い出させます。

私は元々高校教員（担当は日本史が中心）なので中学生への指導は初めてでした。もう1名の社会の先生と分担した結果、1・2年生の授業を担当することに。1年生では鎌倉時代の文化とモンゴル帝国の拡大から蒙古襲来まで、2年生では三角貿易から開国の影響までの内容を扱いました。歴史分野の、しかも日本史の内容が多いところで授業を引き継いだため、何とか授業もできそうだと安堵しました。私も含め、学習指導の支援者は指導主事や行政職など授業からしばらく離れている方が多く、異口同音に「久しぶりの授業が楽しい」という感想を語っているのも印象的でした。

授業は、電子黒板に自作のスライドを提示して進めました。金沢に行ってから即席で作成したため、「本時の問い」や「流れのまとめ」のようなシンプルなものを中心です。何枚かは授業内容に興味をもってもらうためにイラストや地図を貼り付けたものを用意しました。

ただ、生徒が持っている端末と、私が



雪の中の医王山スポーツセンター

使用している端末はお互いのセキュリティの關係によりクラウド上でつながることができず、授業の実践としては少し古いスタイル（教員が前で説明し、生徒はそれを聞く。その際に教員がICT端末を使用して教材や課題を提示する）にとどまってしまうのが残念です。授業で使用したスライドは、復習の役に立てばいいなという思いで、手直したものを残してきました。その方法は、①データをGoogleドライブに保存②引率の先生にデータをURLで共有③引率の先生がそのURLを生徒たちに共有、というものです。こうすれば印刷は不要、データは端末上で必要な生徒が、必要なときにいつでも閲覧できます。しかも拡大縮小も自在、鮮明なカラーでもし、生徒が1人1台端末をもっていないかったら、白黒で、枚数を節約するために小さく印刷するしか方法がなかったでしょう。生徒と教員が端末を使ってやりとりをする、生徒同士がやりとりをする、という使い方はまでは踏み込めませんでした。教材の共有ができた、という点では端末の存在がとてもありがたかったです。

派遣を終えて

1週間（授業に関わったのは4日間）の派遣は、あっという間に終わってしまいました。しかし、担当した授業に加えて授業のサポートや朝礼・終礼で入った教室で関わった生徒の顔、行事で見せてくれた表情、私立高校の合格を報告してくれた嬉しそうな、安堵し

た表情、そういったものは派遣から1か月以上経った今でも目に浮かびます。

集団避難先で勤務する中で考えたことはやはり、自分がいつ被災者そして被災地の教員になるかわからないということ。その時に、自分にできることは何か、自分ならどう行動すべきか、を否応なく考えさせられる1週間になりました。命があることのありがたさ、衣食住に不自由しないこと、ありがたさ、施設の整った学校で十分な教材教具のある環境で学べる（指導できる）ことのありがたさ……。石川からの帰任後は、「平時」にどういった教育をしていく必要があるか、ということにも考えが及ぶようになりました。例えば、普段からオンラインで学習する機会を保障すること・慣れておくこと、安心して共に学べる生徒間の関係性をつくることの必要性。他にも、学習に関するデータをクラウドに蓄積していれば、端末が壊れたりなくなったりしてもデータを取り出すことができるというクラウドのよさも再確認しました。

被災者である先生方、生徒たちと過ごした時間から学んだこと、感じたことを著溪会のみなさまにお伝えすることも何かの支援につながるのではないかと思います。このような形でまとめました。この記事を書いているとき、奥能登の中学校の卒業式のニュースが届きました。被災地のみなさまが、一日も早く平穏な日々を取り戻すことができよう祈っています。

「留学政策の古今」

秋本 克洋

はじめに

冒頭からローカルな話題で恐縮だが、つくばと秋葉原を結ぶ筑波エクスプレスが開通した年の筑波大学の学園祭は印象的であった。それまではどちらかというと田舎っぽく簡素の感があつた学園祭が秋葉原のオタク文化を取り入れた出し物が席捲した。シルクロードや大航海時代の航路開拓による文物の相互拡散の例は理解していても、道ができ人が行き来するということはいささかということだと実感したものである。さて留学の話である。留学は、豊かな知識、進んだ技術を学びに人が行き来するので、個人の育成効果以外に文化的、社会的変革が起ころる可能性を期待することができる。そういった意味で留学には関心を持っていたが、25年ほど前にフランスのジョセフ・フーリエ大学（現グルノーブル・アルプ大学）に研究滞在する機会を得、以来、年2〜3名程度ではあったが双方方向での大学院生の短期交換留学が続いた。これらの交流をベースとして筑波大学、グルノーブル・アルプ大学、両大学の学位（修士あるいは博士）二つが取得できるダブルディグリープログラムが立ち上げられた。新しい留学の形態と捉えることができる。本稿では現在の留学政策の立ち位置を認識するため、日本における留学の形態の経緯を、奈良・平安

時代、明治時代、昭和・平成を例にとり、その時代の政策の観点から概観した後、ダブルディグリープログラムの実施状況を紹介し、将来への期待を述べたい。

留学の歴史——奈良・平安時代——

記録に残る日本最古の留学は遣隋使、遣唐使として渡航した僧侶たちである。日本の仏教の礎を築いたとされる最澄や空海はその代表的留学僧である。最澄は勅命で渡航、空海は20年の留学が義務付けられる学問僧の立場であったが、二人とも正統な仏教を日本にもたらし国教として確固たるものにするという国家の使命を担った留学であった。国家・政治主導の留学だったと言えよう。帰国後も仏教の保護と布教のサポートを得、仏教を全国に浸透させることができた。仏教の浸透により、日本人の精神基盤の一つとされる無常観がこの時代の人心に定着したとされる。留学の効果が大きかったと評されている。

知識や技術の取り込みは専門家を招聘することでも可能となり、留学と組み合わせで行われる。奈良時代に招かれた鑑真はその一人であり、戒律を伝え、仏教界をリードする後継を育てた。5度の渡航失敗、失明しながらの来日は鑑真のただならぬ熱意が感じられる。招聘される側にとってはたとえ短い期間の招へいであっても人生設計やライフワーク、社会的立場など大きく変える心構えが必要となる。何よりも文化や技術が遅れているとみなされる国で活動する強い動機が必要となることは

明らかで、鑑真が渡日を決意するまで数年を要したのは頷ける。留学生派遣に比べ招聘のむずかしさが伺えるが仏僧の招聘は留学派遣同様、国家・政治主導であったと言えよう。

留学の歴史——明治時代——

明治政府は、国の独立維持を最重要事項と位置付け、欧米諸国と対等に交渉できるような殖産興業政策を進めたのは周知のとおりである。欧米の知識、制度、技術等を取り入れる重要な役目を果たしたのが留学生と招聘外国人（お雇い外国人）である。留学の効果を高めるため文部省は「海外留学生制度」、「官費留学生規則」を制定した。それによると、留学派遣の際の人选は文部卿がこれを選命、派遣先については国、大学、学科・年限等を文部卿がこれを指定、帰国の上は留学年限の倍数に当たる年間文部卿の指命する職につきべきことと定められている。帰国後の具体的な職は、招聘外国人にとって代わるポストということであった。夏目漱石が英国留学後、東京帝国大学で教鞭をとっていたラファディオ・ハーンの後任として着任したのはこの規則があつたからであろう。国の綿密な計画のもとに留学が推進され、帰国後は産業振興を現場で先導する人材の育成を担った様子が伺われる。

明治政府が各界の外国人専門家を招聘したことはよく知られているが、年によっては数百人規模で、歳出の1%をその人件費に割いたと報じられている。歳出の1%を現代に当てはめてみると、招聘外国人一人当たりの年俸は、

国民平均年収の2桁アップと計算され、米国プロ野球メジャーリーグ大谷翔平選手の年俸レベルには届かないにしても高額であることがわかる。大人数の専門家の招へいがスムーズに進められた一つの理由としてこの破格の待遇を挙げることができるであろう。待遇はともかく、殖産興業政策の成果に注目したい。1870年から1900年の期間の経済成長の伸び率を、国民総支出(GNE)で比較すると、米国4.65%、日本3.19%、ドイツ2.64%、英国2.01%と報告されている。欧米では第二次の産業革命まったただ中で、経済の伸び率は高く当然であると思われるが、日本の伸び率がドイツや英国以上であることは西欧における産業革命と同程度の産業発展がなされたこととみなすことができる。これらを鑑みて明治期の留学、招聘は国家・経済主導と言えそうである。

招聘外国人は、欧米の知識や技術を一方通行で日本に運んだだけでなく、フェノロサなどを中心に日本文化を欧米に紹介、ヨーロッパにジャポニズムを引き起こしかつ広めるきっかけ作りをしている。文物の双方方向の流れを促す活動をしており、留学政策から派生して得られた大きな成果と言えよう。

留学の歴史——昭和後期以降——

二次大戦後、新たな国際秩序が求められる中、特にアジア地域における友好樹立と経済協力を目的に国費外国人留学制度が1954年に創設された。実施規模が小さく効果は限定的とされた。その後、日本経済の急拡大に伴い、

国際社会での日本の役割をはたす必要性から「21世紀への留学政策に関する提言」(通称留学生10万人計画)が1983年に留学生政策懇談会から発表された。留学生受け入れに力点を置いた政策ではあるが、友好信頼関係の構築、研究の活性化、発展途上国の人材養成への協力が目的とされた。エリート対象であったそれまでの留学が大衆化されたとされている。

10万人受け入れ政策の10万人という数としての目標は2003年に達成されたが、国内全学生数に占める留学生の割合は欧米先進国と比べると極めて小さく、しかも留学生の8割は中国、韓国、台湾からで地域的な偏りがあった。これらの結果を踏まえ、中央教育審議会が「新たな留学生政策の展開について」を同年に答申、さらに2008年、「留学生30万人計画」の骨子」を取りまとめた。それらによると、留学の理念・目的として①相互理解の増進と人的ネットワークの形成、②国際的な視野を持った日本人学生の育成、③大学等の国際化、国際競争力の強化、④国際社会に対する知的国際貢献と設定し、イノベーションを生み出す重要な源泉である優秀な国際人の育成および獲得に重点が置かれた。

留学生10万人計画および留学生30万人計画、両政策ともその目的の成果は国益につながるが、双方向性による相互発展、個人に目を向けた個の育成に言及していることは、奈良・平安時代および明治時代の留学はもとより、日本他の時代の留学政策には見られなかったことである。さらに欧米各国の

留学政策が露骨に国益を前面に出していることを鑑みても注目に値する。昭和後期以降の留学政策は個人・互恵の視点を加えた点に特徴があると言えるであろう。

新たな留学の形態 ―ダブルディグリー制度―

「留学生30万人計画」の実施に当たっては数多くの施策が掲げられており、その一つにダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラムがある。これらのプログラムは、海外大学の教育資源を活用、自大学のプログラムと融合することにより一つの大学ではできない高度なプログラムを構築し、自大学とパートナー校の2種の学位を同時に取得(ダブルディグリー)、あるいは自大学とパートナー校が共同で発行する学位を取得(ジョイントディグリー)するプログラムである。

ダブルディグリープログラムのように二つの大学からそれぞれ学位を取得するためには通常それぞれの大学の標準修学期間の履修が必要だが、カリキュラム相互乗り入れ、単位互換や共通科目の設定等、特別なプログラムにより通常の標準修学期間で修了できるケースが多い。修士論文、博士論文審査は大学ごとに別々で行うこともできるが、両大学合同の審査会を開き、質保証の国際的な展開が実施されている。

ジョイントディグリープログラムでは、学位授与権の相互承認、パートナー校との共同専攻の開設、その共同専攻に所属する専任教員の担当認定など、法的、人事的事柄に関し複雑な問題を

含んでいる。このため筑波大学数理解物質科学研究群ではダブルディグリープログラムを選択し実施している。

筑波大学とグルノーブル・アルプ大学とのダブルディグリープログラムは修士課程(化学、物理学、物質工学分野)、および博士課程(数学、物理学、化学、物理学、物質工学分野)で行っており、標準修学期間は修士課程2年、博士課程3年、論文審査は合同審査である。派遣と受け入れの双方向でのプログラムで、履修生は1年(修士課程)あるいは1年半(博士課程)の間、パートナー校で正規学生と同じ条件で科目履修、研究指導を受ける。ダブルディグリープログラムの成否のキーとなるのは修士論文あるいは博士論文テーマに合致した研究室選びで、この点について慎重に時間をかけて行っている。

フランスにおける修士課程教育の重点項目の一つは、専門分野における基礎力の確立であり、科目履修の単位は、修士課程で取得すべき全単位の80%を占める。研究室での研究体験は数週間のインターンシップとして行われており、インターンシップの単位数の割合は20%弱である。一方、日本の多くの大学における修士課程教育の目指すところは研究者、高度専門職業人の育成で、研究力を養うことに重点がおかれている。修士論文研究の単位は取得全単位の40%を占めているが実情は研究活動にそれ以上の時間が割かれている。カリキュラム相互乗り入れを考えると、グルノーブル・アルプ大学が関心を持ったのが筑波大学の修士課程全期

間で行われる研究指導であった。日本の修士課程修了者が企業に就職してすぐに研究開発者として立ち上がっていることを見聞きしており、日本の修士課程教育に以前から関心を持っていた。また筑波大学側が関心を持ったのがグルノーブル・アルプ大学の幅広い学修と基礎力涵養のプログラムであった。このような相補関係の事情により修士ダブルディグリープログラムはスムーズに立ち上げられた。

博士課程のダブルディグリープログラム修了者はまだ9名であるが、このうち5名が修了までに国内外の有力な学協会から研究成果に関する表彰を受けた。受賞者の割合は5割以上である。専攻あるいは学位プログラム単位での受賞者は1割程度が平均であるので、極めて高い顕彰率といえる。これは、パートナー校での研究指導で専門性に幅が広がることによる研究内容の深化によるものではないかと推察している。受賞者は派遣、受け入れ両者にいるため双方向での個の育成に寄与できるプログラムであると期待しているが今後の推移を見守りたい。

ダブルディグリープログラムの高い個の育成効果について示唆したが、新たな共同研究のスタイルの効果についても注視したい。かつて、ビルヘルム・フォン・フンボルトが研究を介した教育が効果的で大切であることを提唱、この教育法を米国が大学院教育に取り入れたのはよく知られている。20世紀後半の米国の科学技術が世界をけん引する先進的なものになった一つの理由は、この研究を介した教育法にあるとさ

(次ページ下段に続く)

茗溪・東西南北

茗溪会宮城支部

「けんちゃんの朝顔の種」

令和6年1月、柴田高等学校は日本交通安全協会交通安全優良学校表彰を授かりました。この度の受賞は「けんちゃんの朝顔の種」が贈ってくれたものでした。

平成28年2月、東京都足立区の当時小学1年生の高田謙真君は、下校途中に自宅付近で交通事故に遭い他界されました。最愛の息子との思い出と向き合っていた母親の香さんは、ある日。玄関の鏡餅を片付ける際に謙真君が隠していた数十粒の朝顔の種に気が付くのです。以降、香さんは遺族として各種講演会において、けんちゃんが遺した朝顔の種に交通事故防止の想いを託して配られてきました。

令和3年3月。第93回選抜高等学校野球大会に出場した本校は、香さんと面識のある大会主催者である毎日新聞社仙台支局長(当時)を通じて約30粒を譲り受け、生徒・保護者・教職員による「けんちゃんの朝顔の種を育て隊」を結成しました。以来、収穫した種を柴田町役場・近隣の中学校等へと育て隊の輪を広げてきたのです。

全国に広がる紫紺の朝顔、謙真君とお母様が紡いでくれたこの縁を茗溪会諸兄にもお繋ぎいたします。

支部長 土生 善弘(昭62筑体)

柴田高等学校校長



交通安全願う「けんちゃんのアサガオ」 事故ゼロの種船岡中へ 柴田高生が栽培、収穫

交通安全を義務受継のシボルけんちゃんのアサガオを育てる柴田高田町の生徒が、命の大切さを考える動きを次世代につなぐと、収穫した種約100粒を船岡中に贈った。



柴田高の生徒(右)から種を受け取る船岡中の生徒

「けんちゃんのアサガオ」は、小学1年だった高田謙真君が、東京都足立区で亡くなった。真が下校途中に青信号の横断歩道でトラックにはねられ亡くなったのを機に始まった運動。謙真君が育てていた種を船岡中が備蓄していた。再発防止を願って贈った。全道各地に広まると、種は約3万0000粒まで増えた。活動共感した町員が船岡中受け入れを提案した。10日間で7000粒を贈った。柴田高3年の生徒が、その種を育て、収穫した。その種を船岡中へ贈った。船岡中では、その種を育て、収穫した。その種を船岡中へ贈った。

河北新報 R5 年 5 月 30 日 朝刊



けんちゃんの朝顔との出会い



(前ページから続く)
れている。ダブルディグリープログラムでは学生自らパートナー先に移動し、自分の手を動かして研究を進めるので、従来の一般的な共同研究スタイル、例えば、共同研究先にデータあるいは試料を送付、解析依頼し、その結果だけを受け取る、あるいは材料を送り共同研究先で特殊加工したものを返送してもらおうといった依頼形式の共同研究スタイルとは異なる。パートナー先で行った研究結果の知見、洞察が深化していると推察できる。このように考えると、フンボルトモデルとは逆に、教育を介した研究もまた新たな展開をもたらす可能性を有しているのではないかと思われる。

まとめと今後への期待

留学は国家プロジェクトとしての位置づけで実施されてきたが、近年に至り個人育成、互恵の考え方が組み込まれた。経済、科学技術などあらゆるものがグローバル化する中、留学政策における個人育成と互恵の考え方は重要であると思われる。ダブルディグリープログラムはこれらを実現する有望な施策の一つになり得るとの感触を得ている。現状のダブルディグリープログラムは2大学間のプログラムであるが、欧州委員会が主導しているヨーロッパ単位互換制度のようなオープンな教育制度を世界レベルで展開できれば、国境なき科学の世界が拓け、まさしく人類の知恵を結集した研究とその環境での教育が実践できるのではないかと夢想している。

(筑波大学数理物質系 特命教授)

元素講話こぼれ話 第四話：元素の原子量と同位体について

大嶋 建一

元素周期表では元素の原子量は水素では1.008、ヘリウムでは4.003、リチウムでは6.941、…との表示があり整数ではない。今回、前半では原子量を考える際には同位体(アイソトープ)が必要であることに触れる。後半では同位体には安定な同位体と放射性同位体(ラジオアイソトープ、RI)の2種類があり、特にRIは我々の身近でさまざまは形で利用されていることを述べる。

- 1. 原子量とは：**原子は中心に正の電荷を持つ陽子と電荷を持たない中性子から構成される原子核があり、その周りに負の電荷を持つ電子が回っている。さらに、原子は陽子と電子の数が常に等しく、電気的には中性である。構成要素の陽子と中性子の質量はほぼ等しく、電子の質量の約1840倍であるので、原子の質量は陽子と中性子の質量の和に等しいと思ってよい。さて、陽子と中性子の質量は $\sim 1.67 \times 10^{-24}$ グラムであるが、この値は実用的ではないので、炭素原子の質量を12として、これを基準に各原子の質量の比として表す方法がとられている。また、原子を1個1個数えることは出来ないのでモル(22.4リットル)という単位を導入すると、炭素は1モル当たり 6.02×10^{23} 個が含まれ、この値をアボガドロ数と呼ぶ。
- 2. 同位体とは：**水素原子Hは陽子1個と電子1個であるが、さらに、中性子が一つ含む重水素Dと中性子が二個含む三重水素(トリチウム)Tといった構造の異なるものが存在する。このように陽子と電子数が同じで、中性子の数が異なるものを同位体(アイソトープ)と呼ぶ。それらの存在比(原子の数の割合)はHが $\sim 99.889\%$ 、Dが $\sim 0.011\%$ で、Tは微量であるので、原子量は整数にならない。重水素は安定であるが、Tは不安定で弱い放射線を出すので放射性同位体(ラジオアイソトープ、RI)と呼ばれている。トリチウムは福島第一原発事故の処理水に含まれることで世に知られたが、実際には大気中に存在する窒素、酸素にエネルギーの高い宇宙線が当たって核破壊によって生成されたり、中性子が地表まで届くと、地殻中のリチウム、ウランに当たり核反応によりトリチウムが生成される。なお、トリチウムの半減期(放射線量が半減するまでの時間)は12.3年である。
- 3. 放射性同位体(RI)の活用法について：**RIとはウランやプルトニウムのような一部の特別な元素が思い浮かべられるかもしれないが、身近な元素の中でも微量な放射線を出しているものは少なくない。人体にとって重要な構成元素の水素、炭素、窒素、酸素、リン、カリウム等でも放射線を出す原子核(RI)が存在している。以下では、日常生活の中で活用されているRIの例を示す。
 - 1) ^{14}C と年代測定について：**天然に存在する炭素は ^{12}C が98.93%、 ^{13}C が1.07%であるが、RIである ^{14}C が微量に存在する。その半減期は5730年で、ベータ崩壊(電子と反ニュートリノを放出)して窒素14になる。大気中では ^{14}C の割合がほとんど一定であるが、大気との炭素のやり取りが無い地中では ^{14}C が放射線を出して、一定の割合で減少することが知られ、この現象を利用して地中に埋もれた遺跡や文化財などの年代測定が可能になる。
 - 2) ^{40}K と人体の維持機能について：**天然に存在するカリウムは ^{39}K が93.26%、 ^{40}K が0.012%、 ^{41}K が6.73%であり原子量は39.098である。RIの ^{40}K は食品を通じて体内に取り込まれるが、その量はごくわずかであり、体の恒常性維持機能のおかげで一定に保たれるため、健康を損なうレベルでは無いとされている。
 - 3) ^{60}C とジャガイモの発芽防止について：**原子番号27のコバルト(^{59}Co)では27個の陽子と32個の中性子を持つ安定な原子核が100%存在する。RIの ^{60}C は ^{59}Co の原子核が原子炉で1個の中性子を取り込むことにより人工的に生産される。 ^{60}C はベータ崩壊して ^{60}Ni となり、ベータ線(0.318MeV)を放出する。さらに、 ^{60}Ni はガンマ崩壊(波長の短い電磁波を発生)して、1.17MeVと1.33MeVの2本のガンマ線を出す。ところで、私たちの生活の中ではジャガイモは大切な食の材料であることは間違いない。しかし、ジャガイモの芽には「ソラニン」という神経毒が含まれていて、体内に入ると頭痛、胃炎、下痢等の症状を示すので、調理の際には必ず芽を取り除く必要がある。さて、市販のジャガイモは一年中芽なしで購入できるが、家庭菜園で収穫したものは時間が経過すれば発芽する。この違いとして、市販のジャガイモは ^{60}C の放射線が照射され、芽が細胞分裂しないように発芽を抑えてあることによる。この手法は日本ではジャガイモのみ認められているが、世界的には50か国以上で、他の200品目の作物に対して許可されている。なお、 ^{60}C は物質の厚さや密度を測定する工業用測定器、放射線治療、植物の品種改良等に多く利用されている。
 - 4) その他：**現代医療分野で活躍する放射性同位体の利用として、生体の中を描画するRI、病気を癒すRI、脳機能を写すRIがある。詳細については天野良平先生執筆の記事「医療分野で活躍する放射性同位体」が“化学と教育”(46巻8号、482~484、1998年)に掲載されているので参考にしてほしい。

(追記：前回の元素講話こぼれ話第三話では校正ミスがありましたので下記します。①1段目の終わりから2行目と4行目：1985→1895、②2段目終わりから2行目：2011→1911、③3段目の終わりの行：優れ科学者→優れた科学者、④4段目初めから10行目：ラジウムに寄贈→ラジウムを寄贈。)

筑波大学は今

**「世界初」難治性脳腫瘍初発芽腫に
対する加速器を使った次世代治療
BNCTの医師主導治療を開始**

筑波大学は、未だに治療法が確立でき

ていない難治性の悪性脳腫瘍（膠芽腫）を対象に、加速器を用いて中性子を発生させるホウ素中性子捕捉療法（Boron Neutron Capture Therapy。以下「BNCT」という。）による医師主導治療を開始する態勢ができ、初発膠芽腫の患者さんを対象としたBNCTとして世界初の治療を開始しました。

膠芽腫は、5年生存率が10%程度と極めて低いがんであり、手術と放射線・化学療法の組み合わせでも多くが再発し、治療が困難とされています。今回の治療では、すべてを取り切れないような難しい部位に悪性腫瘍がある患者さんを対象に、BNCTの安全性及び忍容性を検証することで、高い有効性が期待される治療法の開発を目指しています。

この治療は、新型高出力中性子線源を用いたつくば型



加速器BNCT装置BNCT001とがん細胞に選択的に集まる性質をもつBNCT用ホウ素薬剤の治験薬SPM-011（ステラファーマ株式会社製）を用いて実施しています。この装置を用いた世界初の取り組みは、これまで難治だったがんに対する強力な新治療法となることが期待されます。

「日本文化ウィーク」を開催

1月16日～1月19日の期間、スチューデントサポートセンター国際交流支援室は「日本文化ウィーク」を開催しました。本イベントはキャンパスのグローバル化を推進するため、主に日本の正月にまつわる文化を留学生に紹介し体験してもらい、同時に日本人学生との交流を促進するイベントであり、期間中はスチューデント・コモンズにて様々なイベントを開催しました。

本イベントには、延べ1,577名の学生が参加しました。スチューデントサポートセンター国際交流支援室は、今後もキャンパスにおける国際交流機会を提供していきます。



コロナで失われた入学式を先輩へ 在校生らが感謝を込め

4年前の4月5日に行われるはずだった2020年度入学式。コロナ禍で中止になった入学式を取り戻そうと後輩たちが立ち上がりました。その入学式は3月13日、永田学長ら執行部も出席して学生会館講堂で挙行されました。

この式典は、在校生を代表する学生団体「全代会（全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議）」が主催。そのほかTJKや管弦楽団、書道部など様々な組織が協力し、新型コロナウイルスの感染拡大により入学式や新入生向けの諸行事を経験できなかった2020年度入学の先輩への感謝の意を示すために企画されました。在校生たちの心温まる発案に大学も全面協力。この春卒業する4年生や既に修了した大学院生を含む264人が出席しました。

4年越しの入学式では本来の入学式と同様、まず本学管弦楽団による奏楽「G.ヴェルディ歌劇『アイーダ』より凱旋行進曲」が披露され、改めて「新入生」を歓迎しました。



大学で歌舞伎を自主公演 ―筑波大学かぶき會―

2月28日、つくばアクションプロジェクト（T-ACT）の企画の1つである「筑波大学かぶき會 第三場（だいさんば）（第一回自主公演）」が開催されました。

このイベントは人間学群障害科学類の加藤 悠介（Tim）さんによって企画されました。肢体不自由の障害のある加藤さんは足のリハビリテーションとして日本舞踊、歌舞伎に親しみ、その魅力を多くの人々と共有したいという思いから、筑波大学かぶき會を立ち上げました。T-ACTの企画として立ち上げたことで、歌舞伎に造詣のある教員をパートナーとして迎えることができ、また、パンフレットやポスターの作成においてもT-ACTのスタッフや教員の支援を受けることができました。

筑波大学かぶき會はこれまでもオンラインでの鑑賞会を通じて歌舞伎の魅力を発信してきましたが、今回は初の自主公演となります。舞台役者に加え、音響や照明、小道具など20名弱の学生スタッフが集まり運営を担いました。



茗溪学園だより

第43回卒業式・卒業生1万人を超える

令和5年度第43回茗溪学園高校卒業式が、3月2日挙行されました。

この学年は、中学2年生の3月にコロナウイルスに起因する緊急事態宣言を受け、登校せずに自宅でオンライン授業という期間を過ごしました。長い間、ほとんどの活動が制限されたまま学校生活が過ぎてしまいました。高校3年の5月に解除されたものの、通常行われたはずの行事や各種大会への参加など、多くができませんでした。しかし、そのような環境の中でも、部活動などでは頑張って活動を続けていました。解除後の各種大会では、例年になく活躍を見せました。辛抱強く地道な努力をする生徒達でした。



卒業生数は254名(内IB課程卒24名)、卒業生総数は、ついに1万人を超え、10,033名となりました。

国際シンポジウム分野別最優秀賞受賞
2月に鹿児島県で開催された、第9回高校生国際シンポジウムにおいて、本校高校2年生が、医療・福祉・防災分野のポスター発表者部門で最優秀賞を受賞しました(テーマ…茨城県南地域の子ども食堂が抱える問題についての解決策)。

また、1月に開催された「第14回

高校生の科学研究発表会(主催…茨城大学)に参加した生徒は(テーマ…アマチュア無線を用いたスポラティックE層の観測)、優秀賞(上位3研究)を受賞しました。

開校以来の「個人課題研究」も歴史を重ねることに充実した活動となり、校内だけの発表に留まることなく、校外または学会でも発表をするレベルの生徒も出てきました。探究活動は本校教育の軸の一つであり、今後も益々充実させてまいります。

国際交流

前号(正月・1119号)でも、「さくらサイエンス」交流を紹介しましたが、1月以降も複数の姉妹校から生徒を迎えています。

ニュージールランドのネルソンカレッジ、ネルソンカレッジガールズ、タイのチュラロンコン公立大学附属中学、シーナカリンウイロート大学附属高校、台湾の国立嘉義高校など、1月から3月までに百名を超える姉妹校生徒を本校に迎えました(学寮およびホームステイでの



チュラロンコン大付中と本校中2アカデミアクラス生との交流(アゴラホールにて)

受け入れ)。

また、本校生徒40名以上が春休みに、短期交流として、ニュージールランド、アメリカをそれぞれ訪問します。

個人課題研究(優秀研究)発表会

令和5年度個人課題研究発表会が、3月7日に開催されました。



日本のおもてなしと海外のサービス

今年度は初めて、発表会として、発表会の前日に、高校2年生全員に対し、課題指導に当たった教員が個別面談をし、自らの研究について、どのような意義があったか、振り返りをする時間を設定しました。学術的な内容にとどまらず、自分自身をより深く掘り下げて見つける機会となったのではないかと思われれます。

12月の全員発表会を経て、この優秀研究の発表となりますが、10分野計40名の生徒が発表をしました。筑波大学の先生方が座長として、発表者に対し

て評価をしてくださいました。発表を聴く生徒達からの質問も、研究を通して得た知識を基に出されるので、互いに高め合う発表会になっていると感じられました。

海外大学への進学状況

海外大学への合格者数は、3月20日現在で、62名となっています。昨年度は、百を超える合格者が出て、国内では2番目に多い学校となりました。この後さらに合格者は増えます。現時点における主な合格大学は次の通りです。

スタンフォード大学(2位)1名、インペリアルカレッジロンドン(8位)1名、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(18位)1名、トロント大学(21位)7名、ユニバーシティカレッジロンドン(22位)2名、カリフォルニア大学サンディエゴ校(34位)1名、メルボルン大学(37位)5名、キングスカレッジロンドン(38位)1名、イリノイ大学アーバナ・シャペーン校(42位)1名、デルフト工科大学(48位)1名、マンチェスター大学(51位)1名、モナッシュ大学(54位)1名、クイーンズランド大学(70位)5名、ブリストル大学(81位)1名、ニューサウスウェールズ大学(84位)3名、カック内の数字は世界大学ランキングです。

また、柳井正奨学金合格2名、日本学生支援機構海外留学奨学金2名(茨城県では2名のみ選出)の合格が出ました。

部活動報告(試合結果など)

- ◎**高校ラグビー部**：第103回全国大会ベスト8(11年ぶり)、第25回全国選抜大会(15回目)3月、熊谷ラグビー場、結果=2回戦敗退
- ◎**高校バドミントン部**：第52回全国選抜大会出場(滋賀)
- ◎**高校体操部**：第40回全国選抜大会(3月、埼玉)、結果=個人総合9位・種目別跳馬2位アジアジュニア大会出場(5月、ウズベキスタン)
- ◎**中学テニス部**：第12回全国選抜大会出場(香川)
- ◎**科学部無線工学班**：令和5年度全市全郡コンテスト(全国)XMJ団体優勝
- ◎**科学部生物班**：第71回日本生態学会大会高校生ポスター発表 優秀賞受賞
- ◎**美術部**：第67回全国学生美術展団体賞受賞(最高賞)34回目
- ◎**書道部**：読書書初めコンクール(全国)高1女子特選受賞

追悼録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

渡邊 一平	23体専	山口	R3.12.24	長男	渡邊 龍成	勝田 雄吉	35院博数	東京	R5. 3.16	長女	野田はるみ
鈴木 茂	24理二	福島	R5.11.10	長男	鈴木 英俊	林 久人	35院博地鉱	秋田	R6. 1. 8	次男	林 直人
星野 和夫	26理三	東京	R5.11. 3	妻	星野 道子	藤井 英嘉	35教大体	北海道	R5.11.30	妻	藤井 榮子
中村 洋一	27文三	茨城	R5.10.29	長男	中村 哲彦	柿下 幹雄	37教大農工	東京	R5. 5. 1	妻	柿下 素子
高橋 浩司	29教大数	千葉	R5.11.26	長男	高橋 和朗	米谷 元捷	39教大体	北海道	R5. 4.22	妻	米谷 廣子
佐藤 仁朗	29教大地	東京	R5.10.13	妻	佐藤 利子	溝口 硯矩	39教大数	神奈川	R6. 1.31	長男	溝口理一郎
恩田 和也	30教大教	東京	R6. 1. 9	妻	恩田 孝子	大坪 壽	44教大体	福岡	R6. 1.11	妻	大坪 雅子
大迫 末司	30教大体	東京	R5.12.25	長女	下釜みどり	寺口 尊教	44院修健	兵庫	R5. 4. 8	妻	寺口 弓子
宮本 俊作	30教大農	千葉	R5.11.18	長女	成田 浩子	平山 満義	47院修教	東京	R5.10.14	妻	平山美奈子
西野 新	30教大農経	北海道	R5. 9. 1	長女	西野 郁子	青木 寛	48教大武	東京	R5.10. 7	妻	青木 幸子
松下 明弘	31教大経	神奈川	R5.10.10	妻	松下 晴世	細田 直史	51教大応数	長野	R5. 8.21	長男	細田 甚成
島田 善介	32教大教	福岡	R6. 3.12	長男	島田 耕介	村上 政人	52院修応数	北海道	R4. 9.22	妻	村上 暁子
大坪 利光	34教大体	静岡	R5.12.11	長男	大坪 秀樹	神立 順子	61筑芸	茨城	R5.10. 1	夫	神立 哲男
高橋 利男	34教大物	茨城	R6. 1.16	妻	高橋喜美子						

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆令和5年度 茗体会総会・懇親会

とき 令和5年11月19日(日)
ところ “嘉ノ雅” 茗溪会館

「茗体会」は、東京高等師範学校の体育科から東京教育大学の体育学部の卒業生、また令和2年度からは筑波大学体育専門学群の卒業生も加わった「茗溪体育の高齢者同窓会」で、概ね65歳以上の卒業生が参加している任意の集まりです。

コロナ禍で総会ができない時期を経て、4年ぶりに総会・懇親会の開催に漕ぎつけました。今回は筑波大学との接続を記念した会で、中島光廣茗体会前会長と真田久筑波大学特任教授に記念講演をお願いしました。参加者は47名(うち筑波大学卒業生が15名)でした。東京教育大学体育学部と筑波大学体育専門学群の卒業生が繋がる会がやっと実現し、参加者皆が楽しい時間を過ごしました。

(文責：柳 久美子)



◆茗総会(昭和33年東教大農学部総合農学科卒)

とき 令和5年12月14日(木)
ところ 上野韻松亭

朝永先生より卒業証書をいただいてから、毎年60年間宿泊を伴う同期会を行って来たが、コロナ禍で4年間空白。今回久しく東京で開催した。米寿を迎え関東在住の6名の同志で近況報告等で楽しいひと時を過ごし再来を期して永気(英気ではなく)を培った。些少だが、会計の余りを茗溪会に送った。

(写真：坂本正明、文：伊東博明)



令和5年秋の叙勲（追記・敬称略）

瑞宝中綬章

佐々木武人 46 院修体

（岩手）

令和5年国家褒章（敬称略）

紺綬褒章

清水三砂男 45 教大農

（東京）

令和6年高齢者叙勲（敬称略）

瑞宝小綬章

松井 恭 32 教大体

（神奈川）

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広 報

訂 正

前号（令和6年正月号）で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P 6 「新年のご挨拶」 1 段目 15 行目

（正） 嘉納治五郎

（誤） 加納治五郎

P 21 「追悼録」 右列 11 行目

（正） 清水溥之

（誤） 清水博之

▽「筑波大学新聞」 4 月号を同封します

「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。筑波大学新聞には筑波大学の様子を詳しく掲載されており、ご活用ください。

▽令和6年度 茗溪会事務局 人員体制

事務局長 矢野 正人（茗溪会常務理事）

大塚事務所 西村宗一郎（所長）

會田 芳光（財政・局長代理）

花上 克宏（総務・局長代理）

小山 恵子（局長補佐）

堤 誠一

栗原 茂夫

前田 三郎

筑波事務所 野崎 芳恵（所長）

瀧下 芳彦（局長代理）

宮本 靖子

表紙写真について

神奈川県藤沢市にある江の島からは、右に富士山、左に三浦半島、そして正面には相模湾という大パノラマを展望することができます。

早春の海は陽光に輝き、遠く伊豆大島を背景にヨットがゆつくりと進んで行きます。夏の湘南とは異なる穏やかな春の景色です。

（広報委員 鈴木一弘）

編集後記

この正月に発生した能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本号のグラビアは前号（正月号）に続いて地域総会の様子を2ページに亘って掲載しました。従来掲載しておりました茗溪会賞芸術部門受賞者の作品等は、次号（夏号）に掲載いたします。

昨年11月に開催した「追悼のつどい」の様子を小泉いづみ理事に執筆していただきました。

「桐の葉のつどい」への投稿もお待ちしております。（事務局）

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

令和6年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九一八五〇一〇四四

FAX 〇二九一八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

お願い

会員様のご逝去の連絡先について

◆茗溪会大塚事務所

メール: info@meikei.or.jp

電話: 03-3941-0136

(火曜日、木曜日、金曜日)

10時～16時

※メールでのご連絡について

○会員様のお名前(漢字・フリガナ)

○ご逝去年月日(享年)

○会員番号が判ればご記載ください。

○ご連絡者のお名前、及び日昼に連絡のとれる電話番号を必ずご記載

ください。

○茗溪会よりお問い合わせさせていただきます。ただ、事項がありますので、よろしくお願いいたします。

(茗溪会事務局)



株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>

〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 **荒井 豊人**(昭和57筑基工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

株式会社 十和観光

JUWA
代表取締役社長 **井坂 信洋**

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ
代表取締役 **藤田 文武**(体育専門学郡 2004年卒)

学校服のことなら

株式会社 オリムピア

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6
TEL:03(3654)2251 FAX:03(3651)2323
<https://www.s-olympia.com>
取締役 **渡邊(草間) 悟**(56 農林・62 博農)

集めるのは「知識」と「技術」
さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントを形にする会社

PiCK & MiX
Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 **松村直樹**
<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC
Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>
当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。
創業者:代表取締役社長執行役員 **谷輪 重之**(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

新・教職課程演習

全22巻

筑波大学人間系教授 **清水美恵** 監修
広島大学大学院教授 **小山正孝**

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価:1,650円～2,640円(税込)

協同出版 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp> 「新・教職課程演習」全22巻



Restaurant&Cafe

ランチ・カフェ・ディナー

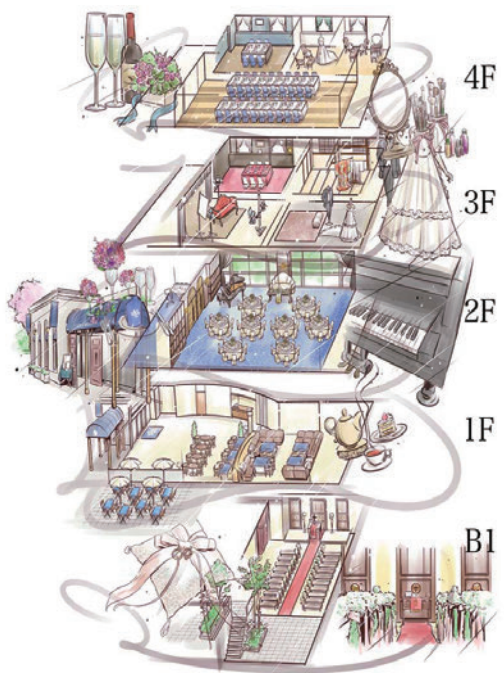
“嘉ノ雅” 茗溪館
KANOBi MEIKEIKAN
Wedding
結婚式・結納・フォト

Party&Meeting

宴会・同窓会・会議



嘉ノ雅 茗溪館 館内 MAP



4F コンベンションホール
個室

3F 貸衣装サロン
茗溪写真スタジオ

2F バンケット
イベントホール

1F カフェ・ホールテラス
フロント・クロック

B1 挙式会場

茗溪会会員・筑波大学生・卒業生の皆様だけに贈る

ご優待特典

ご婚礼 費用総額（税サ別）より5%OFF

お食事 ご飲食合計（税サ別）より10%OFF

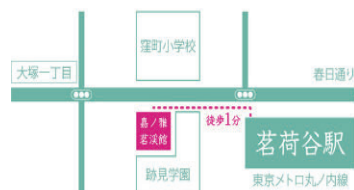
お食事会・ご宴会・会議のご予約も承ります

大ホール（2F茗溪） 最大100名様
小・中ホール（4F筑波・新泉） 28名～72名様
個室（あけぼの・占春） 6名様～12名様

ご利用料金は、人数・利用部屋によって異なります。
音響設備・スクリーンの使用など、別途料金（¥10,000～）が発生いたします。
ご利用の場合は、ご予約・お支払時に在学証明書・名刺・茗溪会員証などの掲示をお願い致します。

※全て着席時の人数記載となります **お気軽にお問い合わせくださいませ**

池袋駅から約5分・東京駅から約10分。
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩約1分。



“嘉ノ雅” 茗溪館

KANOBi

MEIKEIKAN

TEL: 03-5319-1890

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
HP: <http://www.kanobi-meikeikan.com/>

問い合わせメールアドレス: info@kanobi-meikeikan.com
営業時間: 11:00～20:00 定休日: 不定休 ※要問合せ

▼HP▼ ▼LINE友達募集中▼



ID: @enc2843s

「マッチングアプリの経験は 無駄ではなかった。」

「アプリで、何度か会ってみたけれど、失望のくり返し。」

遠回りしたからこそ、出会いを大切に、

真摯に結婚へ向き合う。

「結婚を誠実に考える人限定の会員制クラブ」の

評価を高めてくれたマッチングアプリ。

今、キューピッドは、時代の恩恵に感謝しています。

キューピッドクラブ

検索

「信頼性は結婚カップルメッセージで実感できる」の
想いからスタート(2008年6月)し、
ついに、4,500通に到達。年間200通を超える
真実の言葉が積み重なった金字塔です。

キューピッドの 結婚

筑波大で出身の皆さまへ

ご入会の際、
キューピッド推薦のスタジオ写真
撮影料金(3万円相当)を
特典サービスいたします。

キューピッドクラブは慶應義塾大学OB間の親睦パーティから、1980年設立。

■お気軽に資料をご請求ください。

☎ 0120-0333-82



■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。

結婚に安心して向き合えるフィールド



44th

Cupid Club

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館10F 03-5843-1581 公式ホームページ www.cupid.co.jp

東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ別) ¥ 5,000~¥10,800
 シングルA (バス・トイレ付) ¥ 7,000~¥13,500
 ツイン (バス・トイレ付) ¥10,500~¥18,000
 朝食バイキング ¥ 1,200→¥ 880
 大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2
 TEL 03 (3356) 4605
 FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口
 都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口
 地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口
 } より徒歩7分
 JR新宿駅より車5分



「安心」「安全」「快適」な
 ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
 ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

会社 HP <https://www.fyf-h.com>
 x (旧 Twitter) @FYF_INC

~ ITソリューションでより良い未来を ~

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
 TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 3-15-16 毎日東ビル 4F
 TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
 TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
 TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1丁目 1-2
 21きのしたビル 9F
 TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社HP】

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1丁目 5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1丁目 5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

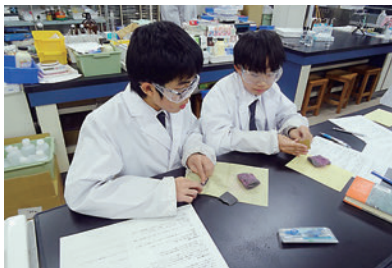
茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆ 多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆ 文部科学省 SSH（3期目）認定校です

**2024 年度公開行事
および学校説明会開催予定**

4月27日(土) オープンキャンパス
5月~6月 海外学校説明会
アジア：ジャカルタ、クアラルンプール、
シンガポール、バンコク、ホーチミン、ハノイ、マニラ、上海
アメリカ：東海岸および西海岸各都市
6月7、8日(金、土)
桐創祭桐創祭(文化祭)
詳細については本学園ホームページでご確認ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)